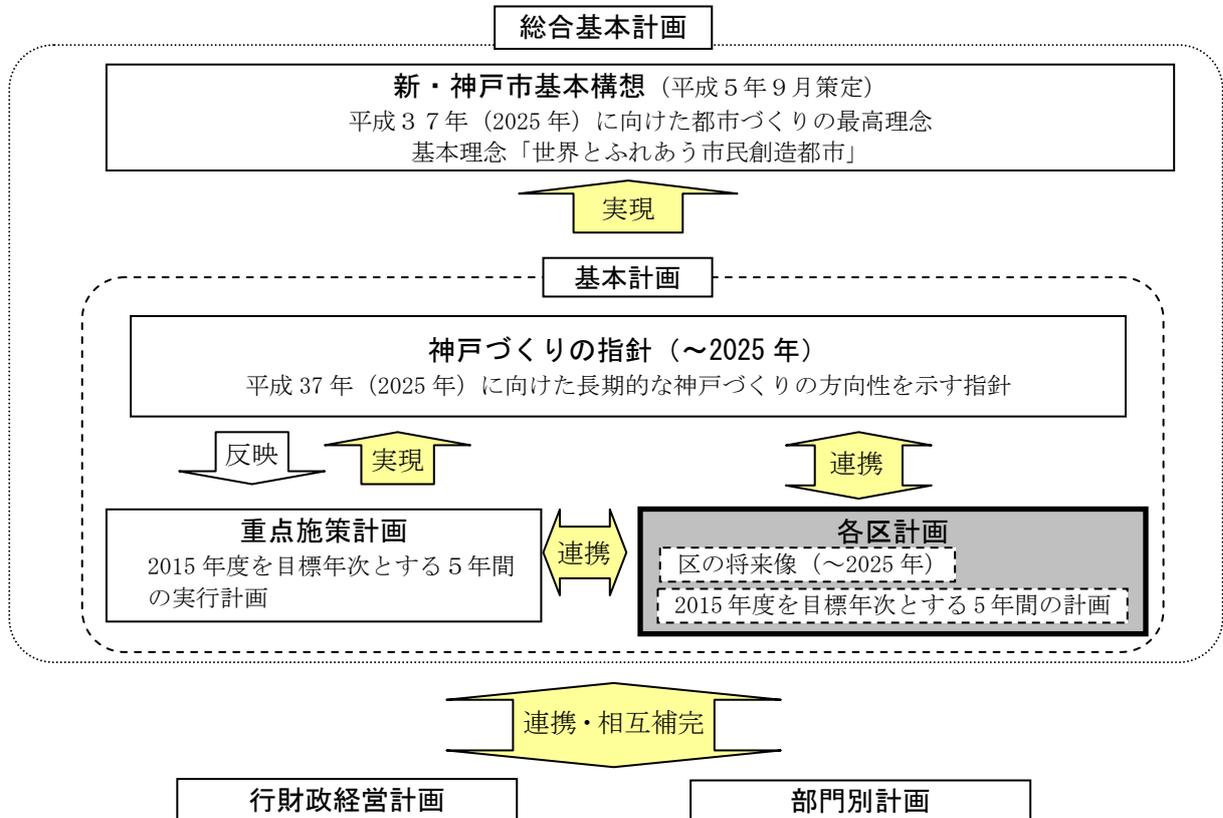


「各区計画」の検討状況について（中間報告）

1. 各区計画の位置づけ

各区計画は、基本構想の実現のための基本計画の一部を構成し、「神戸づくりの指針」および「重点施策計画」と相互に連携しながら一体的にその内容に取り組んでいきます。



2. 各区計画の考え方

各区計画は、各区の個性や特性を活かし、生活に密着した分野を中心に、区民と目標を共有し協働で取り組むための計画として、区民や地域団体等の意見を聞きながら、各区の区民まちづくり会議が中心となって策定します。

各区計画の推進にあたっては、区民まちづくり会議が検証・評価し、その結果を踏まえて改善に取り組むPDCAサイクルにより計画の進行管理を行います。

区民まちづくり会議

区のまちづくりについて、区民が自ら話し合うとともに、区民の創意や活力を生かした各種の実践活動を進め、市民・事業者・行政による協働のまちづくりを地域から先導する場として平成6年に設置。1期2年単位で、地縁団体やボランティア、NPO、大学関係者など多様な市民層から、各区ごとに約50人前後の委員を市長より委嘱しており、区民活動の企画・検討や実践、市政への提言などに取り組んでいる。

3. 各区計画の構成イメージ

【策定中】

① 区の現状・課題

各種データや区民アンケートなどの区民参画の結果からみる区の個性や特性を示します。

② 2025年（平成37年）に向けた区の将来像

区民と共有する区の将来の姿を示します。

【今後策定予定】

③ 5年間（2011年度～2015年度）の実行計画

○重点テーマ

区民の生活に密着した分野を中心に、区民と行政が協働で取り組むものに重点をおいてテーマを絞り込みます。

○具体的な取り組み

区民と行政が互いの役割を尊重しながら計画の推進に取り組むため、「区民が中心となって取り組むこと」「行政が中心となって取り組むこと」「行政と市民が一緒になって取り組むこと」に分類します。

○まちづくり指標

区民と行政の協働の取り組みの進捗状況を把握するための参考資料として数値目標を設定します。目標達成に向けて、区民が自ら実践するわかりやすいものを選定します。

4. 検討スケジュール

	区民まちづくり会議	神戸市総合基本計画審議会
21年度	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">各区計画素案の検討</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <div style="background-color: #e0f7fa; padding: 2px; text-align: center;">2025年に向けた将来像</div> <p>5年間（～2015年度）の取り組み まちづくり指標</p> </div> </div>	
22年度		<p>→ 各区計画総論部分（区の将来像）の中間報告</p> <p>→ 各区計画素案を審議</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">市民意見募集 ～～～ 計画の策定</div>		

【参考】 2025年に向けた各区の将来像（中間報告）

<東灘区>

「ふるさと都市東灘」～交流の風が吹くまち～

東灘区の魅力を身近にバランス良く併せ持ち、住み続け、あるいは再び戻りたくなる

「ふるさと」都市

（基本指針）

「であい・つなぎあい・育ちあい」

【参考】 23年度～27年度の取り組みの柱

1. 未来の大人をまちが育てる
2. まちが見守り支えあう
3. まちの魅力をみがき、活力を与える
4. 身近な自然を守り親しむ
5. みんなが主体となって互いに育ちあいながらまちをつくる

<灘区>

- ・良好なコミュニティの継続・発展（人と人のつながり、世代をこえて）
- ・豊かな自然を守り育てる（身近な山や川、エコ、緑）
- ・住んでよかった、ずっと住み続けたい（安全・安心、快適、美しい、健康）
- ・にぎわいと活力がある、夢がかなう（人の交流、子ども、商店街）
- ・まちを誇りに思う、まちを楽しめる（まちを誇りに思う、まちを楽しむ）

【参考】 取り組みの方向性（5年間）

- I 地域力（人と人とのつながり）
- II 安全・安心なまち
- III 子どもと青少年
- IV 生活マナーの向上
- V 健康・高齢者・ユニバーサルデザイン
- VI まちの個性・交流・情報発信・活力

<中央区>

「訪れる人にとっての中央区」「住んでいる人にとっての中央区」の2つの視点により、将来像を検討している。

○「将来像」としてのキーワード（例）

海と山が見えるまち、みなとを活かしたまち、人と人とのつながりを大切にするまち、みんなの憧れのまち、ひとり歩きのできるまち、日常が魅力的なまち、子どもにも高齢者にも障がい者にもやさしいまち、「神戸らしさ」の中心となるまち、子育てのしやすいまち、多文化共生のまち など

【参考】 伸ばすべき個性・魅力「中央区らしさ」

- 六甲山系の自然と生田川・神戸港のウォーターフロント
- 業務、商業、文化、国際交流など多彩な都心機能
- 多彩な人材の集積
- 海・空・陸／交通のターミナル機能
- 先進性・ファッション性・国際性
- 歴史的資源と都市型観光施設群
- 多国籍の外国人居住と外国人コミュニティ
- 多様な地域がコンパクトにまとまった“まち”

<兵庫区>

「やさしさと思いやりのまち 兵庫」を引き続きまちづくりの基本方針として、大きく育てていきます。

○ まちづくりの目標

- (1) いつまでも住み続けたいくなるまちづくり
- (2) とともに長寿を喜びあえるまちづくり
- (3) 歴史と自然を活かした潤いのあるまちづくり
- (4) 文化・スポーツ活動の盛んな明るいまちづくり
- (5) 活力あふれるまちづくり

[参考] 地域別の将来方向

(1)北部

- ・閑静で住みよい、ふれあいのまち
- ・水と緑と歴史に恵まれたまち

(2)中部

- ・区を中心としての機能をもつまち
- ・商業や文化活動の盛んなにぎわいのまち

(3)南部

- ・産業と生活の調和するまち
- ・兵庫津の歴史とウォーターフロントに親しめるまち

<北区>

「人が集い 安心して暮らせる 魅力あふれる 緑のまち 北区」

○人・もの・情報が行き交い、暮らす人・訪れる人など多くの人が集うまち

○北区の地域特性を考慮したうえで、日常生活における利便性・安全性を高め、あらゆる世代が将来にわたって安心して暮らせるまち

○北区には、特徴的な魅力が多くあり、これらを活用した魅力あふれるまち

○北区は、豊かな自然に恵まれた緑のまちであり、この北区の美しい環境を、次世代のため守り育てていく

[参考] 5年間で重点的に取り組むテーマ

- ① 地域力の向上
- ② 北区の魅力の活用と情報発信
- ③ 安全・便利なくらし
- ④ 次世代づくり
- ⑤ 健康づくりと福祉の充実
- ⑥ 美しいまちの推進

<長田区>

世界に誇れ！ 食と鉄人 「グー」なまち 長田

鉄人 28 号モニュメントには、震災から立ちあがっていく様子を右手の「グー」に託している。また、長田神社前のキャラクター「グー」ジーも福をもたらすふくろうとして活躍中である。そして good の「グー」。「グー」に力をこめて、これからもがんばっていく。

[参考] 4つの柱 (5年間)

- 人 : 老いも若きも共に楽しく和やかなまち
- まち : また来てみたいおもろいまち
- 自然 : 自然を生かしたうつくしいまち
- つながり : つながりを大切にするまち

<須磨区>

地域の力と情熱があふれる住みよいまち—須磨—

地域の取り組みの主体である地域住民相互のつながりで、地域愛を大切にしながら、さらに須磨の魅力を活かし、住みよさを追求する取り組みを進めます。

○実現に向けた方向性

- ・ 区民生活やまちの基盤である「安全安心なまちを目指す」
- ・ 区民一人ひとりが笑顔で過ごせる「やさしさあふれる元気なまちを目指す」
- ・ 区の特性に根ざした誇りとうるおいある「魅力が輝く美しいまちを目指す」

[参考] 2015年までに取り組む重点テーマ

- ・ 安全安心のまち～まちを守る～
- ・ 共に地域で元気に暮らせるまち～お互いを支えあう～
- ・ 子どもが健やかに育つまち～子と親を支え育む～
- ・ 花と緑に囲まれた美しいまち～まちを美しくする～
- ・ 地域の魅力を育み活かすまち～まちを育み活かす～

<垂水区>

若い世代が子育てしやすく、おとしよりがいきいき暮らすことができ、すべての区民が生活文化をたのしめる、活気・活力とぬくもりのあるまちを目指します。

[参考] 2015年までに取り組む柱

- ・ 災害・犯罪に対して“安全・安心”なまち
- ・ 健康づくり・文化が盛んな“元気・楽しい”まち
- ・ 生活マナー・まちの美化を守る“快適・美しい”まち
- ・ 人のつながり

<西区>

まちの目標像

安全・安心：地域住民のコミュニケーション、地域団体の連携を大切にし、子どもから高齢者、障害者など誰もが安全・安心を実感できるまちづくりに取り組みます。

健康・福祉：地域とともに自ら考え、行動し、子どもから大人まで誰もが生き生きと元気に楽しく過ごせるまちづくりに取り組みます。

交流・共生：水辺と緑に囲まれた自然環境を守り育て、多くの歴史的文化的資源を活かし、地域や世代を超えた交流を育むことで、美しく活力のある西区づくりに取り組みます。

[参考] 実践プラン（5年間）

- ・ 安全で安心なまちづくり
- ・ 次世代育成支援の推進
- ・ 中高年者・障害者の支援の充実
- ・ 地域福祉活動の充実
- ・ 交流が生み出す活力あるまちづくり
- ・ 自然と共生した美しいまちづくり

東灘区計画 総論案

(中間報告資料)

2025年の東灘区の将来像

<将来像> 「ふるさと都市東灘」～交流の風が吹くまち～

- 東灘区の魅力**
- ・六甲山を背にし、海に広がる豊かな自然環境
 - ・古くから良好な住宅地
 - ・大学・美術館等が立地する文教のまち
 - ・酒文化、史跡やだんじり
 - ・多様な都市機能（鉄道・道路などの交通網、食品産業、ホテルなど）

以上を身近にバランス良く併せ持ち、住み続け、或いは再び戻りたくなる「ふるさと」都市

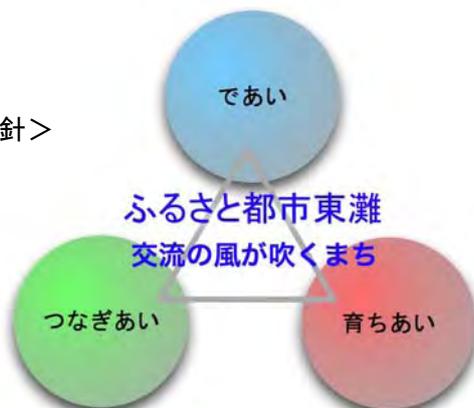
<基本指針> 「であい・つなぎあい・育ちあい」

東灘区は、神戸市の東端に位置し、阪神・淡路大震災以降マンション建設が続いたことにより、転入者や出生数が増え続けています。

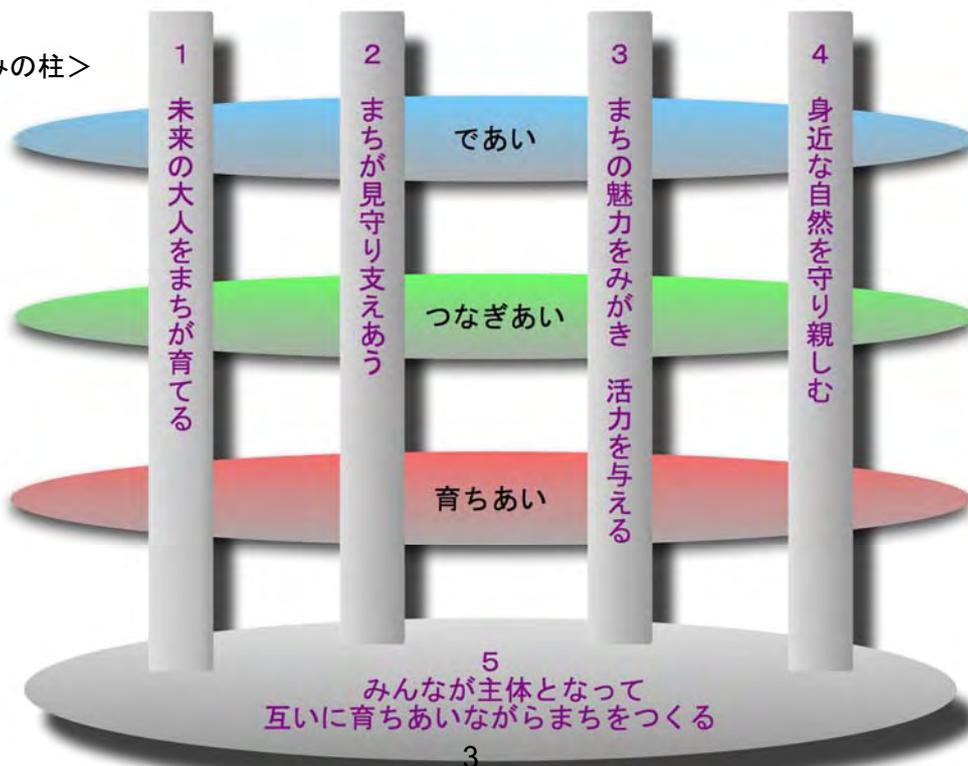
この新しい出会いのまち東灘で、多くの人々が、まちを愛し、手と手をつないでその輪を広げ、お互いに協力し合うことで、人とまちが育つという考え方である「であい・つなぎあい・育ちあい」を、引き続き、新しい東灘区計画の基本指針として、東灘のまちづくりを進めていきます。

計画のイメージ

<東灘区の将来像及び基本指針>



<取り組みの柱>



現 状	課 題	
今後しばらく、 子どもの数は多い状況が持続する	①保育所などでの子どもを受け入れられる体制づくりなど、子どもの数を見据えた対策が必要	1
子どもの成長に 不安や悩みを持つ保護者が増えている	①子育てが負担になったり不安に感じている人を地域全体で支えあうことが求められる。 ②男性・女性ともに働きながら子育てができる環境を整えていくことも必要 ③妊婦への応援など出産前から子育ての段階に応じて、地域と共同した、よりきめ細かな対策が必要である ④経験不足を補うための、親育ちのための学習の場が求められる。 ⑤子育て家庭をサポートする関係者の連携が必要 ⑥発達障害児・障害児の保護者が気軽に集うことのでき、ショートステイなどの休息ができる機能が必要 ⑦食への不安が高まるなか、事業者には消費者への安全と安心の提供が求められる。 ⑧食品企業が集積している区の特性をいかし、食品企業とコラボレーションした取り組みが必要	
子どもたちに「居場所」が必要	①子どもたちには、安心して過ごせるとともに、役割があって自分を受け入れてくれる「居場所」とともに、それを見守る人員確保が必要	
災害に対する意識が薄れつつある	①自然災害の被害を最小限にとどめるため、地震・水害など過去に発生した災害を忘れずに、常に意識し、伝えていかなければならない。 ②日中に災害が発生することを想定して、事業所やNPOと連携をとった防災訓練をすることも必要 ③災害時に援護を必要とする人たちを地域で支える体制、仕組みづくりが必要 ④住民や事業者、学校が普段から地域でのつながりを深めていくことが重要	2
自分の安全は 自分で守らなければならない	①誰もが安全に安心して暮らせるよう、地域ぐるみの取り組みの拡充が必要 ②交通事故の大きな要因となっている違法駐車の追放と、被害者となりやすい高齢者や障害のある人、子どもへの啓発が必要 ③住民や事業者、学校が普段から地域でのつながりを深めていくことが重要	
まちの中に助けの必要の人がいる	①高齢化社会にあって、地域見守りが必要。特に、仲間作りの支援が必要 ②生活習慣病の予防と介護予防のためにも健康づくりが必要 ③発達障害者・障害者が気軽に集うことのでき、ショートステイなどの休息ができる機能が必要	
まちの魅力がたくさんあり、 身近に触れることができる	①まちのにぎわいを生みだしている一つ一つの魅力をさらに高め、住んでいる人だけでなく、区外・市外の人とも訪れて楽しいまちにしていけるためには、連携と情報発信、わかりやすい広報が必要 ②震災後の区民に、東灘の歴史や文化を伝え、わがまちに誇りをもってもらえるようにすることが必要 ③区内の大学との連携をさらに深め、大学のもつ人的・知的資源をまちづくりに生かしていく必要がある。 ④整備される新図書館を有効に活用していく必要がある。 ⑤商店街を生かした地域コミュニティの活性化を考える必要がある。 ⑦様々な国の人の文化を理解し、多様性を認め合う豊かな地域コミュニティをつくる必要がある	3
まちの美しさが失われかけている	①環境美化活動(マナー啓発や区内一斉清掃、違法駐輪対策など)を行い、できるだけ環境に負荷をかけないように取り組み、美しいまちを次代に引き継いでいく必要がある ②生活マナーの問題解決には、地域と行政がともに取り組むことが必要	
豊かな自然環境に恵まれている	①東灘区の住環境はそこに住む人たちによって、長い間に培われてきたものである。これからも自然を大切に、自らの手で守り育てていくことが必要である。 ②ウォーターフロントの魅力の活用を図る必要がある ③イノシシ対策として餌付けをしないようにしていくとともに、特定外来生物による被害を防止する必要がある	4
地域にはさまざまな人と いろいろな活動がある	①誰もがいつでも暮らしつづけたいと思えるまちにするためには、新たに区民となった方や団塊の世代の方々などさまざまな人がまちづくりに参加でき、その人たちが活動しやすい環境を整えていく必要がある。 ②新たな住民(マンション住民など)と旧来からの住民、新住民同士、地域とのつながりが持っていない方々など、コミュニティ強化を図る取り組みを拡充する必要がある。 ③マンション内でのコミュニティの醸成、また地域との交流を図ることが必要である。 ④山麓部、浜手エリアなどの共通課題を持った地域の連携が必要 ⑤各地域団体やNPO等テーマ型団体も、団体毎の活動範囲にばらつきがあり、横の連携が必要 ⑥地域団体の役員の高齢化や活動の担い手不足も相まって、コミュニティは高齢層に負担が偏るとともに、人材の希薄化が課題	
地域の活動に 参加するきっかけがない人もいる	①活動しやすい環境と協力しあえる体制の充実が必要 ②参加していない人の無関心と非協力も地域の大きな課題	5
まちを育て、つくるのは人	①まちの課題は、これまでの枠を超えて解決しなければならないこともあり、みんなが協力し合える体制が必要である ②わがまちに愛着がもてるようにふるさとづくりが必要 ③誰もが住みよいまち、このまちに暮らして良かったと実感できるまちづくりが必要 ④まちの将来像ができていく地域では、それを実現していくことで地域力が高まる。	

東灘区計画(23年～27年度)の取り組みの柱

<p>1. 未来の大人をまちが育てる</p>	<p>(1) 子育てを応援する 「子育て親育てまち育て」の取り組みをすすめる しごとと子育ての両立を応援する 情報や知識を共有しあう 「食育・健康タウンひがしなだ」をめざす</p> <p>(2) まちが子どもの育ちの場となる 子どもたちがまちで活躍する機会をつくる 子どもたちが自主的に活動できる居場所をつくる</p>
<p>2. まちが見守り支えあう</p>	<p>(1) 災害に対する意識を高める 情報をさまざまな手段で提供する 実践的な取り組みにつなげる 援護を必要とする人たちを地域で支える</p> <p>(2) みんなで見守りあう 犯罪・事故情報を共有する まちをみる目を増やす まちで出会いつながる</p> <p>(3) まちで暮らす人を守る 地域で福祉を考え支え合う みんなで健康づくりを行う</p>
<p>3. まちの魅力をみがき、活力を与える</p>	<p>(1) まちの魅力をつなぎ、つたえる まちの魅力を浮かび上がらせる 芸術文化の発表の場をつくる</p> <p>(2) まちの魅力を活かし、活力のあるまちをつくる 伝統・酒文化を生かす 大学の力を生かす 地域の商業・産業を生かす 多文化と共生する</p> <p>(3) まちの美しさをみがく ごみを減らし、環境負荷を軽減する 生活マナーを守り、清潔で美しいまちをつくる</p>
<p>4. 身近な自然を守り親しむ</p>	<p>(1) まちの自然を守り、育てる 川に親しむ まちなかに花と緑を増やす</p> <p>(2) 山に親しむ 緑と景観を守る 生物を守り共生する</p> <p>(3) 海に親しむ ウォーターフロントの魅力を創る 海の環境を守る</p>
<p>5. みんなが主体となって 互いに育ちあいながらまちをつくる</p>	<p>(1) わがまちを知る 転入者にわがまちを紹介する 再発見する</p> <p>(2) わがまちを育てる 考える機会を増やす 場を整える</p> <p>(3) わがまちをつくる 手段を用意する 実際に行動する</p>

東灘区計画の検討経緯

1. 区民まちづくり会議での検討経緯

平成21年3月～10月	区民まちづくり会議 東灘区計画提言専門委員会 (第1回3/17, 第2回5/20, 第3回6/24, 第4回7/23, 第5回8/19) ・総論の検討(現状と課題、方向性、将来像) ・「提言(総論)」まとめ案の検討
9月16日	区民まちづくり会議 総会 ・「提言(総論)」中間取りまとめ案の検討(ワークショップ等)
10月9日	区民まちづくり会議 東灘区計画提言専門委員会 ・「提言(総論)」まとめ案の作成
10月27日	区民まちづくり会議 総会 ・「提言(総論)」まとめ案の決定
11月	東灘区計画(総論)策定

2. 区民参画

【区民アンケート】

実施時期：平成20年12月25日～平成21年1月16日

対象：住基3,300人+区民まち委員53人+市政アドバイザー142人 計3,495人

回収率：42% (1,476件)

主な意見：安全・安心、医療施設の充実、自然・環境、住環境、高齢者支援

【シンポジウム】

時期：平成21年7月21日

対象：公募(一般、老人会、婦人会など)+区民まち委員 約250人

内容：区民活動事例紹介など

【「未来のまち東灘」図画・書道募集】

時期：平成21年8月

対象：幼児、小・中学生

内容：「未来のまち東灘」をテーマとした図画、書道

【みらいのまち東灘～子どもフォーラム(区長と小・中学生との座談会)】

時期：平成21年9月6日

対象：区子連図画書道展「未来のまち東灘賞」受賞者及びその父兄 計12人

内容：事前アンケート及び座談会

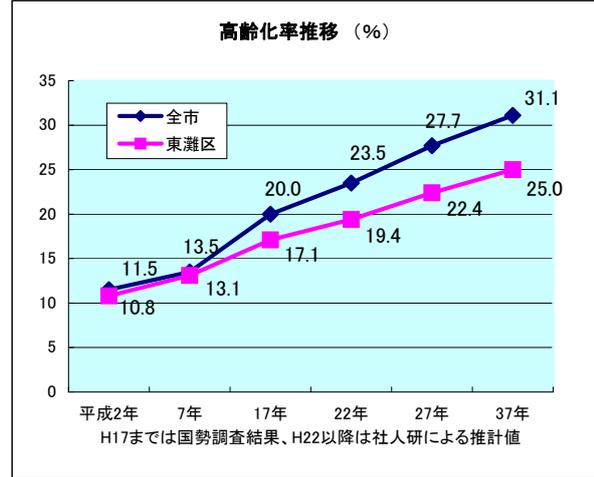
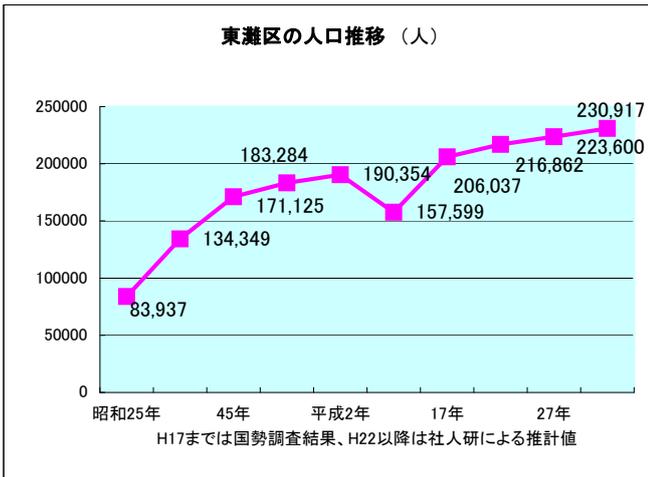
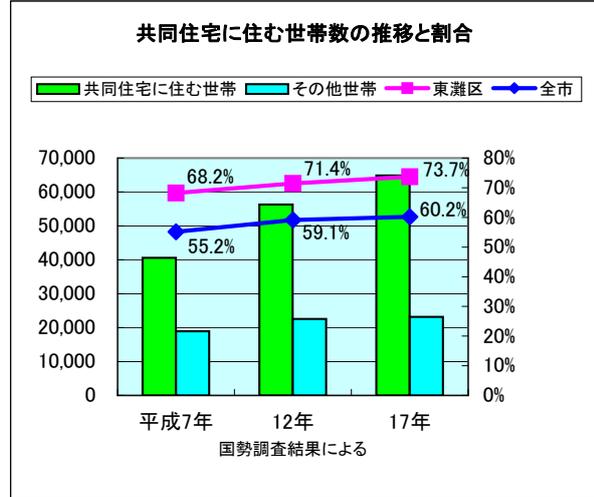
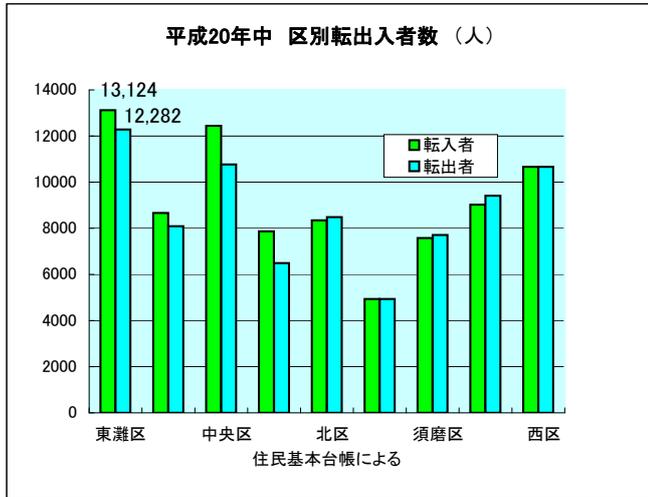
【区民まちづくり会議と区内大学生によるワークショップ】

時期：平成21年9月16日

対象：区民まち委員(23人)+大学生(12人)

内容：ワークショップ(次期計画に係る質問、柱など総論部分に対する意見)

東灘区計画(総論) 主要データ



東灘区年齢別人口(国勢調査および社人研推計)

東灘区	1990(H2)	1995(H7)	2005(H17)	2010(H22)	2015(H27)	2025(H37)
合計	190,354	157,599	206,037	216,862	223,600	230,917
0～14歳	31,906	23,666	29,297	30,724	29,398	25,508
	16.8%	15.0%	14.2%	14.2%	13.1%	11.0%
15～64歳	136,740	113,168	141,322	144,089	144,037	147,577
	71.8%	71.8%	68.6%	66.4%	64.4%	63.9%
65～74歳	12,138	13,263	19,921	21,594	25,554	23,402
	6.4%	8.4%	9.7%	10.0%	11.4%	10.1%
75歳～	8,360	7,310	15,279	20,454	24,611	34,431
	4.4%	4.6%	7.4%	9.4%	11.0%	14.9%

注: 2005(H17)までは国勢調査結果、2010(H22)以降は社人研(国立社会保障・人口問題研究所)による推計値(中位推計)。国勢調査結果には年齢区分不詳を含むため、また推計結果は四捨五入の関係で合計が一致しないことがある。

灘区計画 総論案

(中間報告資料)

「次期灘区計画」中間報告

1. 検討経緯

(1) 灘区民まちづくり会議での検討

① 総会

- ・検討開始:平成 21 年 3 月 23 日
- ・総論部分:平成 21 年 11 月 12 日 ※中間報告
- ・計画素案:平成 22 年 3 月下旬(予定)

② 企画運営委員会での検討(月 1 回開催)

(2) 区民参画による検討

① 「灘区のまちづくりに関する区民アンケート調査」(平成 21 年 1 月実施)

- 対象者:2,146 人 (内訳)・15 歳以上無作為抽出 2,000 人
- ・灘区民まちづくり会議委員 51 人
 - ・灘区市政アドバイザー 95 人

回 答:1,000 人 (回答率 46.6%)

② ワークショップ(全 4 回実施:平成 21 年 6 月 28 日、7 月 20 日、9 月 6 日、10 月 11 日)

参加者:公募、企画運営委員会委員、灘百選の会(幹事・事務局)メンバー等 約 25 人

内 容:これからの灘区づくりのための提言

- ・15 年後の灘区の将来像について
- ・これからの灘区づくりのための“おすすめアイデア”について
- ・「これからの灘区のまちづくり 5 カ条」について
- ・これから 5 年で重点的に取り組むべきことについて

③ これからの灘区のまちづくりを考えるシンポジウム(平成 21 年 8 月 20 日実施)

参加者:約 280 人

場 所:王子動物園ホール

内 容:次期灘区計画策定に向けた取組み状況、パネルディスカッション(これからの神戸づくり・灘区づくりの意見、今後の地域活動への抱負等)

④ 区長との懇談会(今後予定)

対 象:事業者、大学関係者、小中学校校長会、中学生 等

(3) 庁内検討状況

① 中期計画 PDCA 会議(灘区関係係長等で構成)での検討(月 1 回開催)

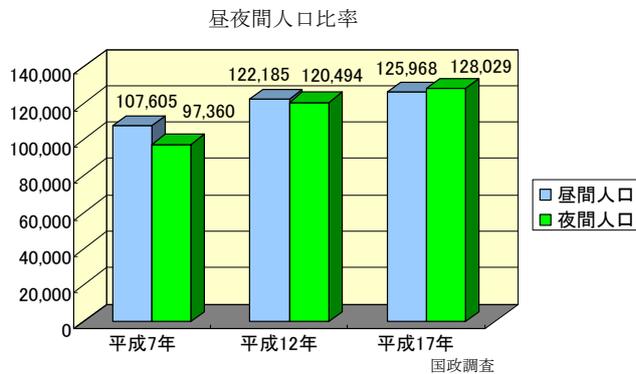
② 灘区行政総合調整会議(三金会)での重点項目等の意見聴取(平成 21 年 9 月 18 日)

2. 灘区の現状と課題

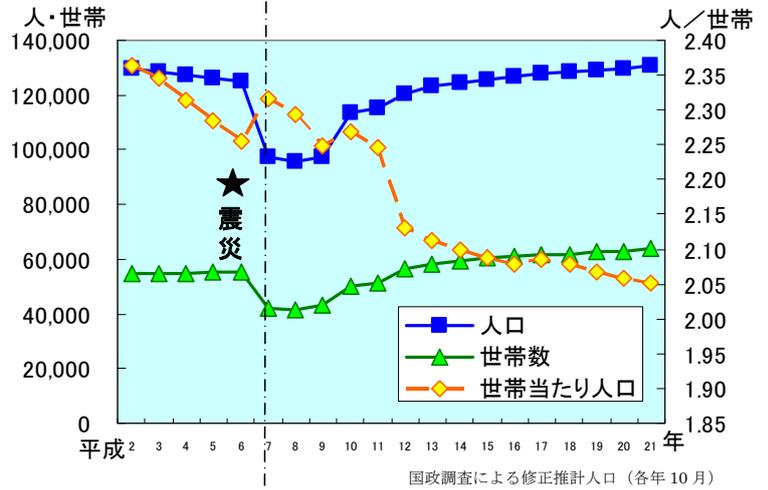
(1) 現状データから

① 人口

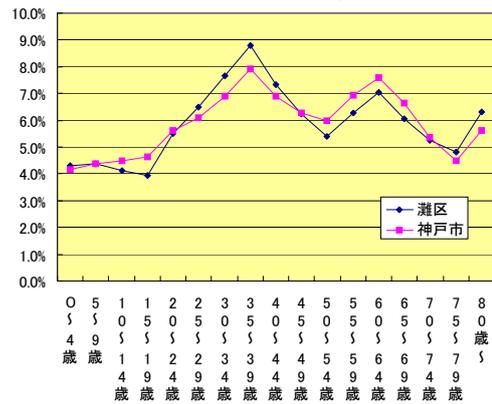
- ・平成 21 年に 13 万人を超えた。ここ数年は毎年 500～600 人ずつ増加。
- ・世帯構成人数は平成 17 年の 2.09 から平成 21 年の 2.05 へとさらに小家族化が進む。
- ・人口構成として、25～49 才が全市平均より多い。
- ・平成 17 年に 25 年ぶりに昼間人口より夜間人口が多くなった。



区の人口・世帯数の推移

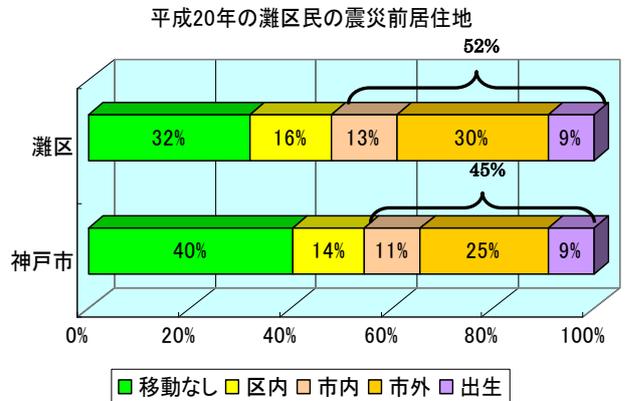


人口構成(5 歳階級)



② 震災後の区民

ここ数年、新築マンションの着工が多く、市外や市内他区からの転入や出生により、震災後に新たに区民になった人は、5割を超えた。
新たに転入された人を含むコミュニティづくりの課題が、さらに大きくなっている。



③ 六甲山・摩耶山の観光入込客数

平成 20 年には、500 万人を超えた。
さらなる活性化の取り組みが必要である。

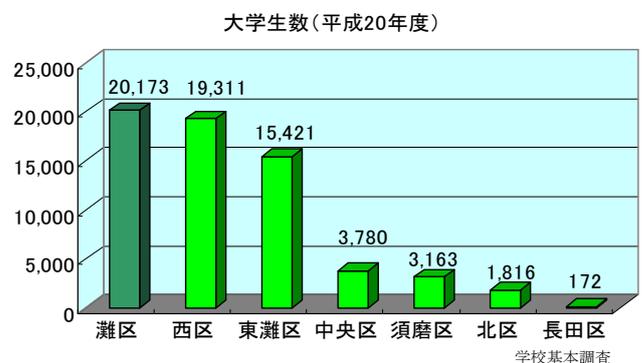
年間観光入込客数 (千人)

	H6	H7	H18	H19	H20
六甲・摩耶	7,320	2,250	4,660	4,960	5,020
神戸市全域	24,400	10,740	29,200	28,410	28,610

神戸市統計書

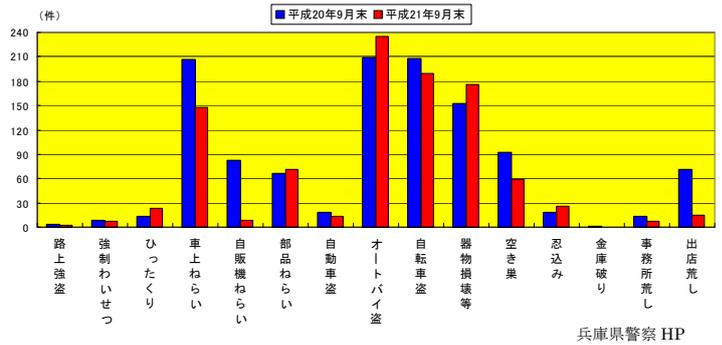
④ 大学と学生のまち

区内 3 大学(神戸大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸海星女子学院大学)があり、約 2 万人の大学生が在学しており、学生数が市内で 1 番多い区である。



⑤ 刑法犯認知件数

刑法犯認知件数は、最近は減少傾向にあるが、車上ねらい・オートバイ盗・自転車盗などが多い傾向にある。防犯に対する地域での一層の取り組みが必要である。

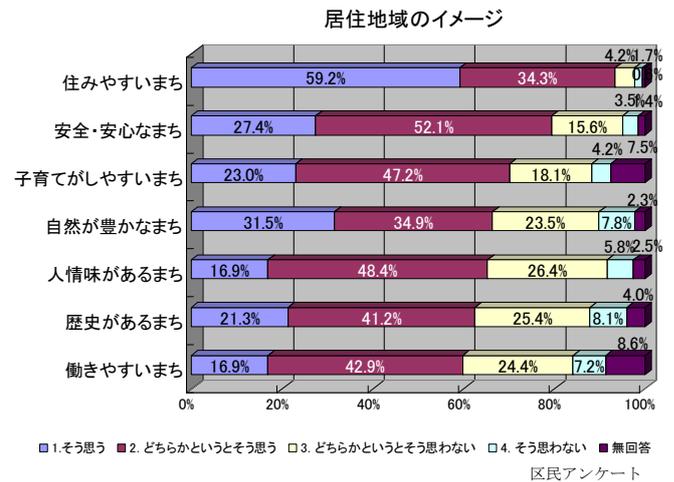


兵庫県警察 HP

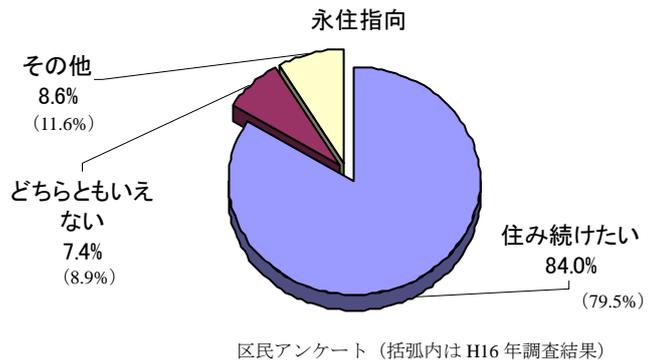
(2) 区民アンケート調査から

① 灘区のまちのイメージ: 住みやすいまち

区民2,000人アンケートで、居住地のイメージを聞いたところ、9割以上の方が「住みやすいまち」と答えており、その他「安全・安心なまち」、「子育てがしやすいまち」、「自然が豊かなまち」というイメージが強い。「自然の豊かさ」については他のアンケートでも灘区ではポイントが高い。



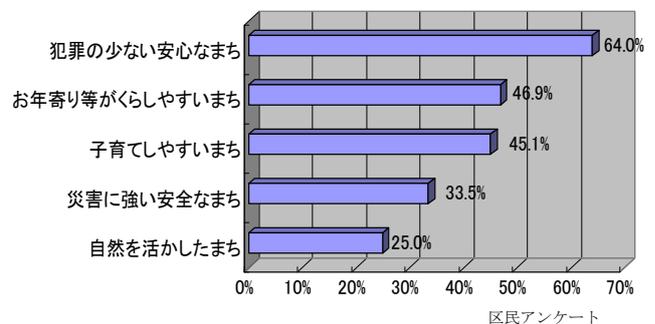
永住指向は、前回平成16年度調査より5ポイントアップし、84%となっている。居住地として高い評価をえている。



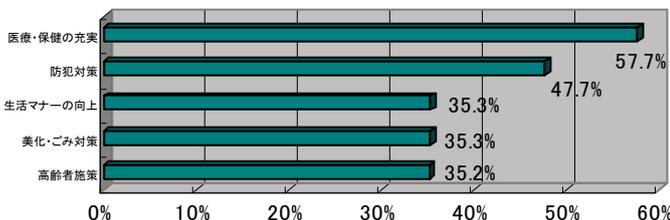
② 目指すべきまち

協働で目指すべきまちとして、「犯罪の少ない安心なまち」が最も多く、「お年寄り等がくらしやすいまち」、「子育てしやすいまち」と続く。
 今後5年間で行政が取り組むべき重点施策として、「医療・保健の充実」や「防犯対策」に対する期待が高い。
 今後活発化を望む地域住民による活動として、「子どもや青少年の健全育成」が最も多く、「高齢者や障害者の生活を支える福祉活動」、「生活マナーの向上」と続く。
 伸ばしていくべき魅力資源として、「六甲山・摩耶山の自然」が圧倒的に多く、「桜の名所」「文化施設」と続く。

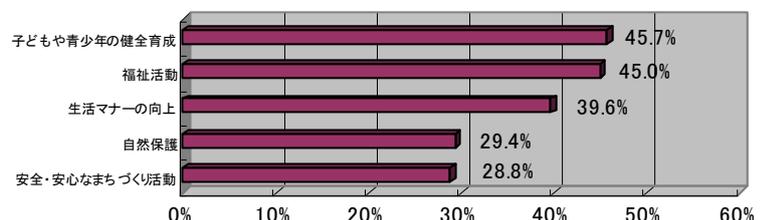
行政と区民との協働で目指すべきまち



今後5年間で行政が取り組むべき重点施策



特に活発になればよいと思う地域住民による活動



(3) ワークショップでの意見

(これからの灘区づくりの「おすすめアイデア」)

- ・地域人材バンク(区民が出来ることを提供しあう)
- ・子どもに夢を与える(灘区出身の偉人たちをPRする)
- ・灘ブランドのPR強化(灘区の特産・物産をPRする)
- ・灘の道の駅プロジェクト(臨海部でモデルプロジェクトにする)
- ・灘の魅力発信(様々な媒体を使った、人をひきつける情報発信を行う)

3. 灘区の将来の姿(2025年に向けた区の将来像)

良好な地域コミュニティの継続・発展
(人と人のつながり、世代をこえて)

豊かな自然を守り育てる
(身近な山や川、エコ、緑)

住んでよかった、ずっと住み続けたい
(安全・安心、快適、美しい、健康)

にぎわいと活力がある、夢がかなう
(人の交流、子ども、商店街)

まちを誇りに思う、まちを楽しめる
(魅力発信、歴史・文化、文教施設)

4. 区の取り組みの方向性

I. 地域力(人と人とのつながり)

(特徴・方向性)

さらなる少子超高齢化等による今後の地域活動の担い手不足が懸念され、また地域課題の複雑多様化に対して住民主体により解決する仕組みを強化していく必要がある。地域人材の発掘・育成、地域団体間の連携を促進するとともに、事業者と地域との連携、また大学と地域との連携も強化し、地域力の向上を図っていく。

(キーワード(主な事業))

① コミュニティと人づくり

- ・地域人材の発掘・育成(地域人材バンクの拡充、次世代リーダー育成研修など)
- ・地域活動の活発化と参加促進(団塊の世代・転入者等の地域活動参加の推進など)
- ・区民一人ひとりの参画意識向上(地域ごとのわがまち計画づくり、地域情報カルテづくりなど)

② 事業者と地域との連携

- ・事業者と連携したまちづくりの活発化(灘まちづくり事業者ネットワークの拡充など)

③ 大学と地域との連携

- ・地域課題の解決につながる連携事業の内容充実(まちづくりチャレンジ助成など)
- ・留学生との交流(伝統・文化の相互交流など)

II. 安全・安心なまち

(特徴・方向性)

「防犯」に対する区民の関心は非常に高まっている。また災害時の要援護者への支援、新型インフルエンザなどの新たな危機への対策などにも取り組み、地域防犯力・地域防災力を高め、安全・安心なまちを目指す。

(キーワード(主な事業))

① 地域防犯力の強化

- ・地域コミュニティ強化(声かけ・あいさつ運動の推進、自主パトロール、なだ防犯ナビの拡充など)
- ・事業者等との連携(灘・地域ぐるぐるパトロールの拡充など)

② 地域防災力の強化

- ・子ども等への実感できる防災教育(ファイアーアドベンチャー、震災の教訓の発信と伝承など)
- ・災害時要援護者の支援(協働による避難支援体制の検討など)
- ・様々な危機への対策(新型インフルエンザ・食の安全・河川の安全利用についての啓発など)

III. 子どもと青少年

(特徴・方向性)

出生率が全市より高く、子どもや青少年を地域で支援していこうという区民の意識は高い。少子超高齢化の進行や世帯構成人数の減少による家庭機能の低下に伴い、地域全体で子育て・青少年育成を支援し、「子育てが楽しくなるまちづくり」を目指す。

(キーワード(主な事業))

① 地域における子育て支援

- ・子ども・子育て家庭の見守り支援(ベビーキャラバンの推進、子育て協力店の拡充、空き店舗子育て拠点づくりなど)
- ・発達障害児支援(育てにくい子どもへの支援事業など)

② 青少年の健全育成

- ・家庭・学校・地域の連携(家族の絆の再確認、ふれまち協と学校の連携など)
- ・伝統行事等への参加(だんじり・地域行事への参加など)

IV.生活マナーの向上

(特徴・方向性)

地域の大きな課題である「生活マナー」に対する区民の関心は高まっている。ひとりひとりがまちを想い、人を思いやる「ちょっと気配り灘のまち」区民運動をさらに推進・拡充し、協働により、快適で美しいまち、環境にやさしいエコのまちを目指す。

(キーワード(主な事業))

- ① 生活マナー向上
 - ・違法駐輪・駐車(地域でのイエローカード啓発、事業者との連携など)
 - ・ペット飼育、植木鉢等の道路へのはみ出し、迷惑えさやり(地域の取組み事例集など)
- ② 美しいまち
 - ・ごみ出しマナー・不法投棄・ポイ捨て(優良クリーンステーションの推進、ごみ出しマナーのエコ指導員認定制度など)
 - ・美化活動、リサイクル、エコ(「参加の日」の推進、地域の取組み事例集など)

V.健康・高齢者・ユニバーサルデザイン

(特徴・方向性)

さらなる少子超高齢化が進むなか、高齢者を地域で支援していこうという区民の意識は高く、また「医療・保健対策」「高齢者施策」についての行政に対する期待も大きい。地域での健康づくりの支援、高齢者・障害者支援、ユニバーサルデザイン推進を目指す。

(キーワード(主な事業))

- ① 地域における健康づくり支援
 - ・健康づくり、介護予防(健康診査の定期的な受診、子育て世代メタボリックシンドローム対策、メンタルヘルス対策、予防に重点を置いた健康教育、未成年者の喫煙防止対策など)
 - ・ウエルネスタウン(スポーツやウォーキングと連携したまちづくり、地域スポーツクラブ活用など)
- ② 高齢者・障害者の地域での支援
 - ・地域生活・社会活動への支援(地域見守りの充実、高齢者の生きがいづくり・活躍場所の確保など)
 - ・障害者支援(自立支援協議会との連携、就労支援など)
- ③ ユニバーサルデザイン
 - ・人にやさしい・人がやさしい社会(区長との安全点検、わがまちUDの発信など)

VI.まちの個性・交流・情報発信・活力

(特徴・方向性)

灘区のまちの良さを地域の人に知ってもらうことで、まちへの愛着を深め、次世代に伝えていく。また区外にも魅力を発信し、にぎわいと活力のあるまちを目指す。

(キーワード(主な事業))

- ① まちの魅力・情報発信
 - ・自然と文化(灘百選の活用、灘ミュージアムシティ計画の推進、山や川の保護と活用、緑化・飾花、コーラス、灘の魅力発信強化、灘ブランド共通PRなど)
- ② にぎわい・交流
 - ・臨海部(住民主体のわがまち計画づくり、西国浜街道の整備、魅力マップなど)
 - ・摩耶山・六甲山(エコツーリズムの推進、もっと登ってもらうための情報発信など)
 - ・水道筋商業地域(ウエルネスタウン、商店街での情報発信拠点など)
 - ・南北コミュニティ強化(区内各地域の交流促進、南北交通の検討など)

中央区計画 総論案

(中間報告資料)

「次期・中央区計画」総論部分（案）

現状

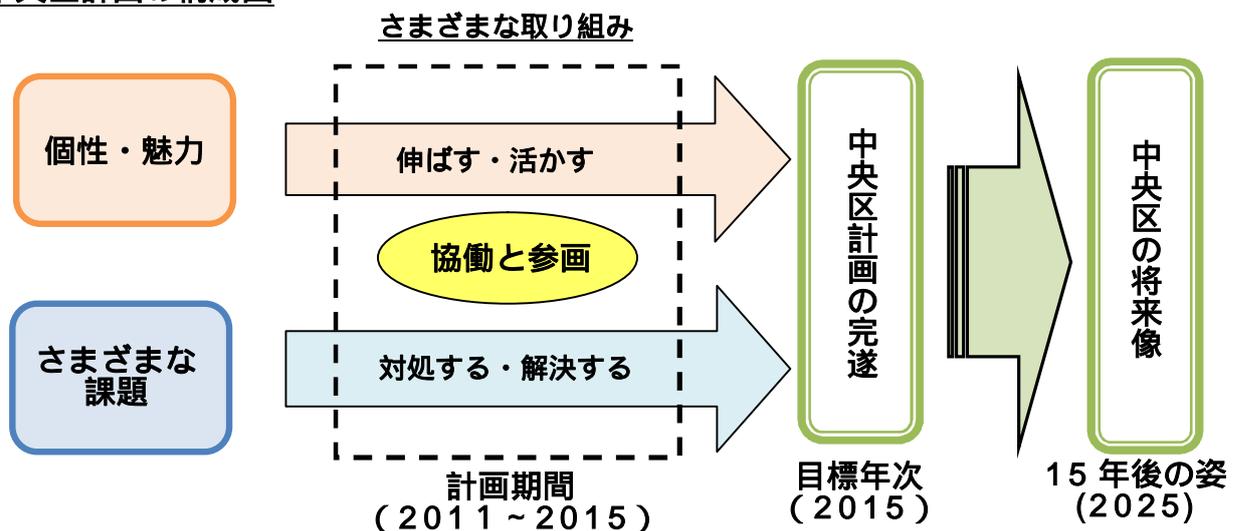
中央区は神戸市9区のなかでまさに中央部分に位置し、神戸市の都心機能を担っています。市街地は、緑多い六甲山地と国際貿易港・神戸港に挟まれた坂のある美しいまちで、神戸港には海上文化都市・ポートアイランドがあり、その沖には神戸空港があります。また、旧居留地や北野・山本地区などを中心に歴史的資源が数多く、布引ハーブ園やメリケンパーク、ハーバーランドなど六甲山の自然とウォーターフロントを活用した施設も身近にあり、都市型観光地としてもにぎわいをみせています。

区の人口は約12万人で、阪神・淡路大震災で大きく減少した人口もHAT神戸の整備や都心居住志向の高まりなどにより増加に転じ、現在もその傾向は続き、合区以来の最大人口を更新しています。

平成20年には市としてユネスコデザイン都市に認定されており、「デザイン都市・神戸」という都市戦略のもと、今ある「神戸らしさ」に磨きをかけていくとともに、医療産業都市構想や次世代スーパーコンピュータといった新たな価値の創造が推進されています。中央区では市が目指す創造都市のあるべき姿の中心を担う都心部として、地域との協働と参画のもと、魅力あふれるまちづくりが進められています。



中央区計画の構成図



中央区計画策定に向けた区民参画の状況

区民まちづくり会議

・安心定住部会

平成 21 年 3 月 17 日(火) 委員 15 名 参加、平成 21 年 11 月 16 日(月) 委員 19 名参加

・都心活性化部会

平成 21 年 3 月 19 日(木) 委員 13 名 参加、平成 21 年 11 月 12 日(木) 委員 13 名参加

中央区のまちづくりに関するアンケート調査

平成 21 年 1 月 14 日(水)～2 月 6 日(金) 平成 21 年 1 月 30 日(金)～2 月 20 日(金)
 各年代の構成比率により無作為抽出した 自治会長、市政アドバイザーを対象に記入式
 中央区民 1,100 人に郵送にて実施 アンケートを実施
 312 人が回答(回答率 28.4%)

大学生と区長との座談会

平成 20 年 12 月 17 日(水)

区内 6 校 10 名参加

平成 21 年 12 月 14 日(月)

区内 7 校 10 名参加

中学生と区長・副区長との座談会

平成 21 年 2 月 20 日(金)

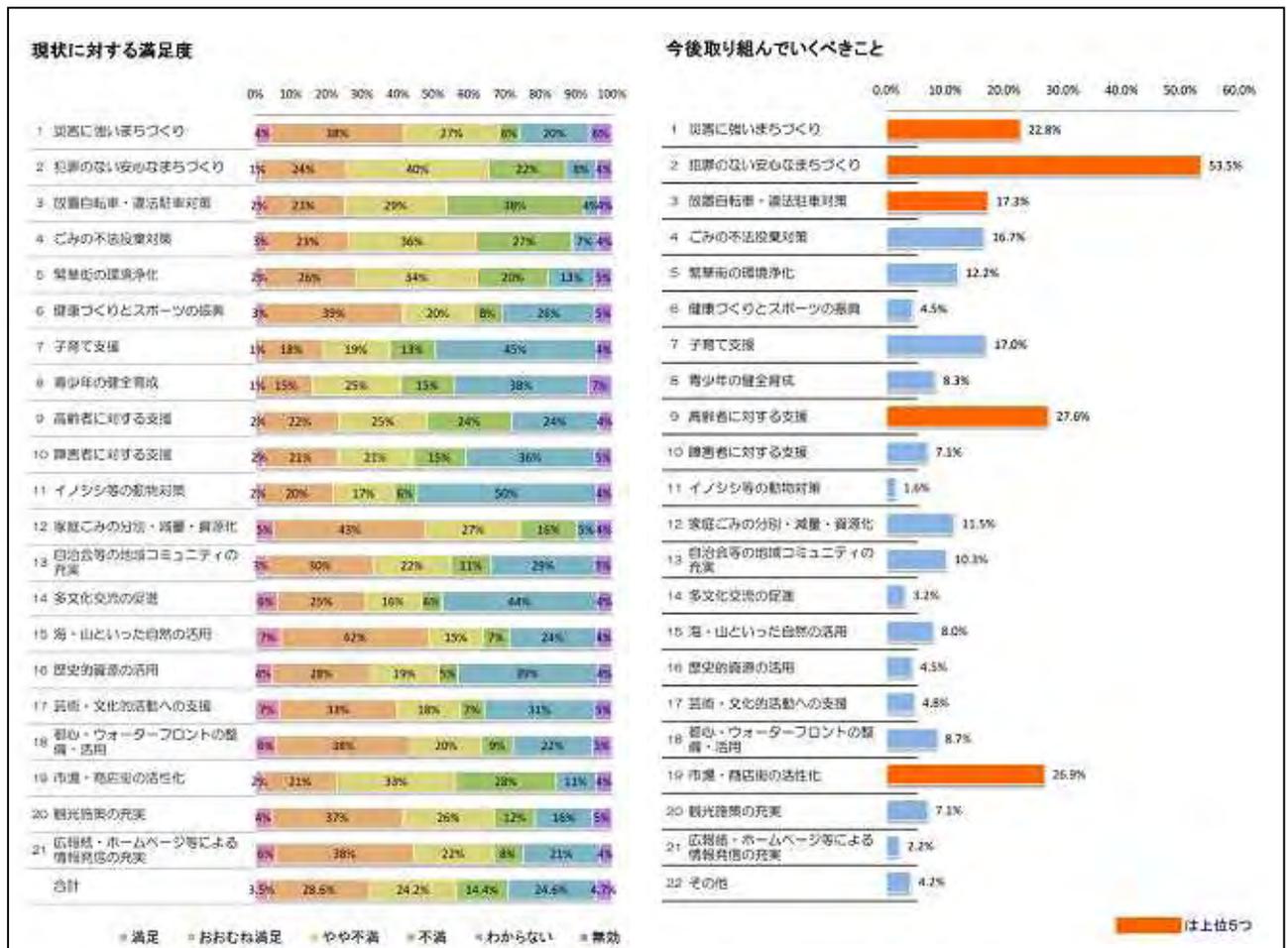
区内 9 校 18 名参加

平成 22 年 2 月頃 開催予定

中央区・次期基本計画シンポジウム ～これからのまちづくりを考える～

平成 21 年 7 月 22 日(水) 勤労会館 7 階 大ホール

参加者 約 250 名(うち 区民まちづくり会議委員 34 名)



中央区のまちづくりに関するアンケート調査結果(抜粋)

伸ばすべき個性・魅力 「中央区らしさ」

中央区は地理的な条件に恵まれ、国際港都神戸の中核として、また住みよいまちとして発展してきました。先人達が遺してくれた多彩な個性を大切にしながら、デザイン都市・神戸のリーディングエリアとして、この蓄積を未来の発展につなげていくとともに、その魅力を内外に発信していくことが強く求められています。

六甲山系の自然と生田川・神戸港のウォーターフロント
業務、商業、文化、国際交流など多彩な都心機能
多彩な人材の集積
海・空・陸ノ交通のターミナル機能
先進性・ファッション性・国際性
歴史的資源と都市型観光施設群
多国籍の外国人居住と外国人コミュニティ
多様な地域がコンパクトにまとまった“まち”

区民まちづくり会議での検討資料

原文	提示されたキーワード			平成17年以降の中央区内の主な動き
	シンポジウム	シンポジウム(アンケート)	まちづくりアンケート	
(前文)中央区は地理的な条件をうまく生かしながら、国際港都神戸の中核として発展してきました。先人達が遺してくれたさまざまな蓄積を大切にしながら、これを未来の発展につなげていかなければなりません。	・多種多彩、中央区の魅力 ・デザイン都市・神戸のリーディングエリア		・現代と歴史が新旧共生 ・中央区は神戸の象徴	・人口の増加傾向 ・新たな都市戦略「デザイン都市・神戸」 ・ユネスコデザイン都市の認定
中央区は地理的な条件に恵まれ、国際港都神戸の中核として、また住みよいまちとして発展してきました。先人達が遺してくれた多彩な個性を大切にしながら、デザイン都市・神戸のリーディングエリアとして、この蓄積を未来の発展につなげていくとともに、その魅力を内外に発信していくことが強く求められています。				
六甲山系の自然と生田川・神戸港のウォーターフロント	・海と山(太陽とさわやかな風) ・美しい夜景	・海・山などの自然 ・きれいな夜景 ・おいしい水 ・身近な登山	・残されている自然 ・海と山の自然 ・街中の緑の多さ(湊川神社周辺)	・都心ウォーターフロントの再開発 ・旧生糸検査所の取得 ・水上警察の移転
業務、商業、文化、国際交流など多様な都心型都市機能の集積	・多いイベントや行事 ・病院や図書館の集積 ・国際会議	・多文化・国際性 ・充実した商業環境 ・公的・公益施設の集積	・住んでいて、買い物便利 ・多いイベント	・G8環境大臣会合の開催
多彩な人材の集積	・大学と地域の連携 ・先端医療 ・海外企業の進出			・大学の進出(ポートアイランド) ・医療産業都市構想の推進 ・スーパーコンピュータ ・ピエンナーレの開催 ・協働と参画の推進
海・空・陸ノ交通のターミナル機能	・空・海・陸のみなど	・交通の集積	・強い港のイメージ ・交通が便利	・神戸空港の完成 ・阪神三宮駅の改修 ・三宮駅周辺三層ネットワーク化 ・外国客船入港数の増加
先進性・ファッション性・国際性の高い都市イメージ	・ファッション ・グルメ	・おいしい食べ物 ・ファッション		
歴史的資源と都市型観光施設群の点在	・神戸を代表する中央区のイメージ ・多い歴史的資源	・満足される観光群	・神戸らしいデザインの建物 ・ノスタルジックなウォーターフロント	・五本松堤防の国重要文化財指定 ・市道「臨港線」の開通 ・布引歌碑のみちの整備
多国籍の外国人居住と、外国人コミュニティの存在	・多国籍の居住者、外国人コミュニティ ・外国人が住みやすい ・多国の食文化 ・多文化共生	・世界の食べ物の集積		・多文化交流フェスティバルの開催 ・海外移住と文化の交流センターの開催
都心をとりまく多彩な居住地	・下町のよさ ・地域(コミュニティ)の協力	・下町商店街の存在	・住んでも素敵なまち ・住みよいところ	・マンションの建設
変更案 多様な地域がコンパクトにまとまった“まち”	・日常の中がいい表情(ノーマークの素顔) ・コンパクト ・多様なまちの存在	・コンパクト性 ・多様性		
その他(他に分類されないもの)	・震災情報の発信	全神戸市の資源・責務(区別には含まない)		

これまでの主な取り組みと今後の課題

安全・安心な美しいまちづくり

これまでの主な取り組み

- ・防災福祉コミュニティ活動の充実
- ・大学との連携による防災対策
- ・新型インフルエンザ等感染症対策
- ・児童の見守り活動
- ・三宮南地域の浸水対策
- ・街灯の照度アップ
- ・三宮北部地域の環境浄化
- ・都心部における放置自転車対策
- ・ごみの不法投棄対策
- ・路上喫煙禁止地区の指定
- ・地域との協働による落書き対策

中央区にとって海と山が近いということは大きな魅力ですが、一方で自然災害の発生の要因でもあります。また、都心であるという特性上、交通事故や都市型犯罪、自転車の駐輪問題といったことが大きな課題となっています。

まちの活性化や市民生活の豊かさの実現のためには、災害に強く誰もが安全安心に暮らせる危機管理のできているまちづくりは必要不可欠な条件です。また、放置自転車対策や環境浄化を進める美しいまちづくりは、特に重要な課題となっております。これらの課題はいずれも継続的な取り組みが必要であり、地域と事業者と行政が協働で取り組んでいく必要があります。

心豊かに暮らせるまちづくり

これまでの主な取り組み

- ・「健康こうべ21」の推進
- ・発達障害児のサポート充実
- ・子育てサークルへの支援
- ・異世代間交流の促進
- ・ごみの減量資源化の推進
- ・動物との共生に関する各種啓発
- ・障害者公募作品展「ハートでアートこうべ」の開催

少子高齢化の進展や核家族化による家庭機能の低下、人と人とのつながりの希薄化など地域を取り巻く課題は日に日に大きくなっています。このような状況の中、子育てをしやすい環境づくり、高齢者・障害者が安心して暮らせる地域づくりといった、誰もが暮らしやすく、健やかに過ごせるまちづくりを地域・事業者・行政が一体となって進めていくことが求められています。

また、地球温暖化等の地球規模での環境問題が顕在化するなか、低炭素社会の実現といった社会構造の在り方の見直しとともに、ごみの減量資源化といった一人一人が身近にできることへの取り組みの重要性が増しています。特に、都心部である中央区では人の入れ替わりも多いため、ごみ出しルールが徹底されていない傾向が強く、環境にやさしいまちづくりのためにはこれからも継続した取り組みが必要となっています。

さまざまなコミュニティを育むまちづくり

これまでの主な取り組み

- ・自治会研修、マシヨウセミナーの実施
- ・さまざまな地域団体との連携
- ・多文化コミュニティのつどいの開催
- ・多文化交流フェスティバルの開催
- ・多言語版広報紙の発行
- ・大学等と区との連携協定の締結
- ・地域イベントの開催支援
- ・あいさつ運動の推進
- ・「人・まち・つなぐ」中央区協働助成事業の実施
- ・プラットフォーム(地域活動拠点)の設置、活用

区内ではさまざまな地域住民の団体によって、地域に根差した各種活動がなされており、まちづくりが支えられています。また、中央区には企業も多く昼間人口は夜間人口の約 2.5 倍となっており多くの方が中央区に働きに来られています。一方で人口の約 1 割が外国人であり、さまざまな国籍の方が暮らしていることも「中央区らしさ」を醸し出す大きな要因となっています。さらに近年の動きとしては、ポートアイランドへの大学進出が進んだことにより増加した大学と学生、人口増の大きな要因である転入による新住民も、まちを構成する重要な存在となってきています。

まちの主役は、そこに住み、働き、学び、あるいは訪れる人々そのものであることは言うまでもありません。近年、地域における人と人とのつながりが希薄化しているといわれていますが、まちが活性化するためには、外国人を含めた地域住民、中央区で働く企業人、学ぶ学生といったさまざまなコミュニティの活動がより充実したものとなるとともに、これらのコミュニティが連携し、まちづくりを進めていくことが望まれています。

身近な自然と文化がいきづくまちづくり

これまでの主な取り組み

- ・ぬのびき花街道の整備・活用
- ・布引歌碑のみちの整備・活用
- ・臨港線の整備・活用
- ・神戸歴史ウォークの開催
- ・地域主体のイベントの支援

中央区は都心でありながら、海や山の自然に恵まれています。また、歴史的な建造物・史跡、あるいは地域行事が多く残されていることも中央区の大きな魅力です。

中央区の魅力さをさらに高めていくためには、身近にある海・山を活用し、自然や文化に触れ合いながら文化的で「中央区らしさ」あふれる都市環境づくりをさらに推進していくことが望まれています。また、これら区の魅力を活用し、地域におけるまちの交流のきっかけづくりを進め、個性あふれるまちづくりを推進していく必要があります。

人々が交流する活力あるまちづくり

これまでの主な取り組み

- ・三宮駅周辺における3層ネットワークの整備
- ・都心・ウォーターフロントのグランドデザインの検討
- ・都心回遊性の向上
- ・「花と緑の回廊」事業の推進
- ・みなとを活かしたイベントの実施
- ・広報サポーターの設置

多彩な人々が集い、交流することはまちの活力の源です。中央区は海・空・陸の玄関口として、魅力あふれるまちなみをまもり、育てていくとともに、おもてなしの心あふれる都心づくりが求められています。新たな都市戦略である「デザイン都市・神戸」を推進していくうえでも、区民・事業者・行政の協働により、「都心・ウォーターフロント」の整備や都心回遊性の向上、飾花活動による美緑花等を推進することによって、歩きたくなる都心づくり、おもてなしの心あふれる都心づくり、みなとを活かした賑わいづくりを推進していく必要があります。また、都心である中央区から神戸の魅力を内外に発信していくことも重要な課題となっています。

中央区の将来像

2つの視点

訪れる人にとっての中央区

住んでいる人にとっての中央区

訪れる人にとっても住んでいる人にとっても魅力的なまち

中央区は観光客や就業者、通学者など多くの人が集うまちです。中央区の将来像は、みんなが訪れたい、ここで働き、学びたいと思う憧れのまちでありたいと考えます。また、中央区は多彩な人々が暮らすまちです。その将来像は、居住者にとってやさしく暮らしよい、住んでいることに誇りを持てる心豊かなまちでありたいと考えます。

中央区の将来像を考えるにあたっては、これら訪れる人と住んでいる人の2つの視点から中央区の未来を見据える必要があります。訪れる人にとって魅力ある憧れのまちであるということがそこに暮らす人の誇りとなり、また、住んでいる人がいきいきと暮らしているということがまちの魅力となり訪れる人を惹きつけるというように、この2つの視点は相反するものではなく、お互いがそれぞれをより高めあうことができると考えるからです。

今後、中央区では、訪れる人と住んでいる人、この2つの視点から将来像を描き、中央区の抱える多様な地域が、それぞれより魅力的なものとなることを目指し、地域と行政が一体となって、中央区の多彩な個性・魅力を伸ばし、創造し、さまざまな課題に取り組むことによって、その将来像を実現していきます。

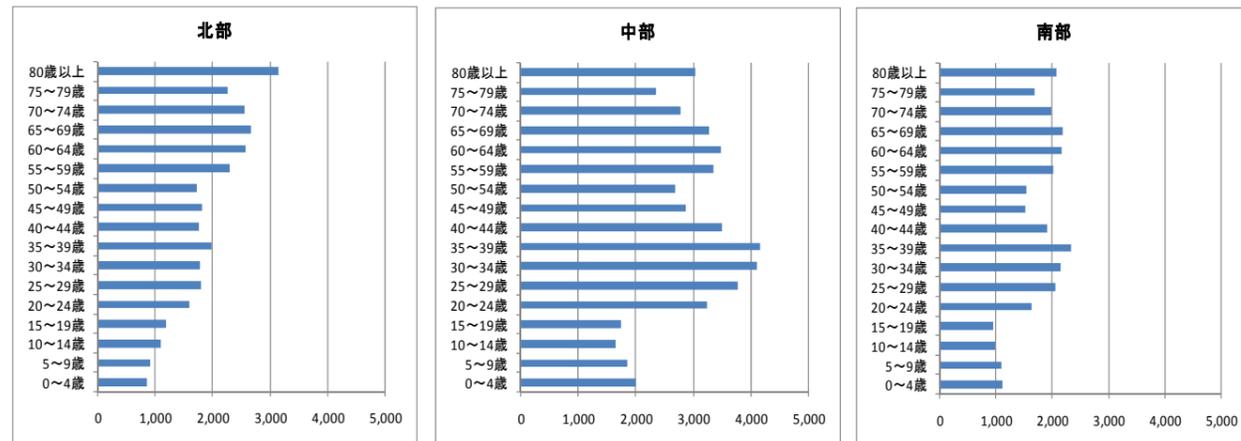
兵庫区計画 総論案

(中間報告資料)

●兵庫区の現状と課題（案）

1. 人口の特徴

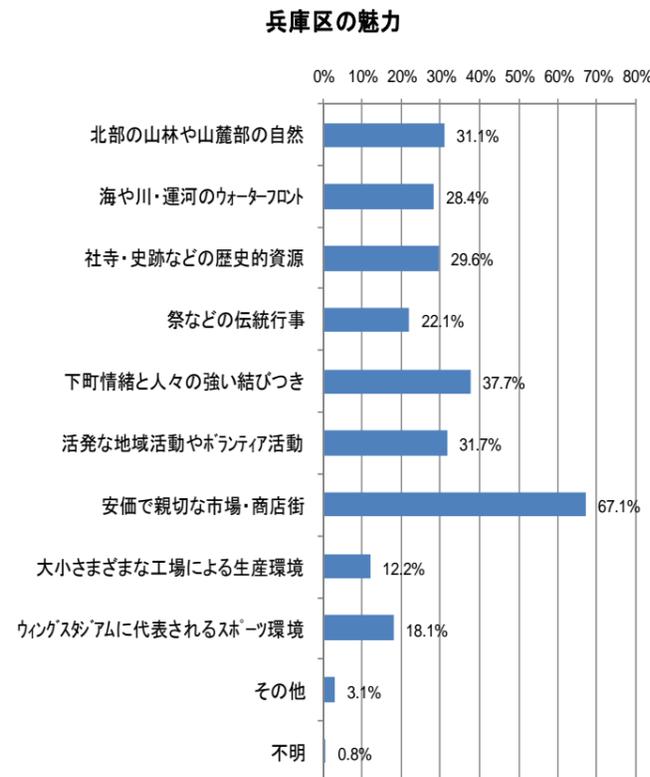
- ・社会全体で少子高齢化が進む中、古くからの市街地が多い兵庫区では、よりその傾向が顕著です。
- ・特に、兵庫区北部では少子化の進行が速く、平成 21 年春に北西部4小学校の統合が行われ、北東部でも小学校の統合が予定されています。
- ・民間住宅の供給が顕著な中部では、20代、30代の人口比率が高く、南部地区でも、20代、30代の人口比率が多くなっています。
- ・少子高齢化への対応はもちろんのこと、こうした若年・壮年層への施策も重要と考えられます。



H21.4.30 現在の5歳階級別人口 (単位: 人)

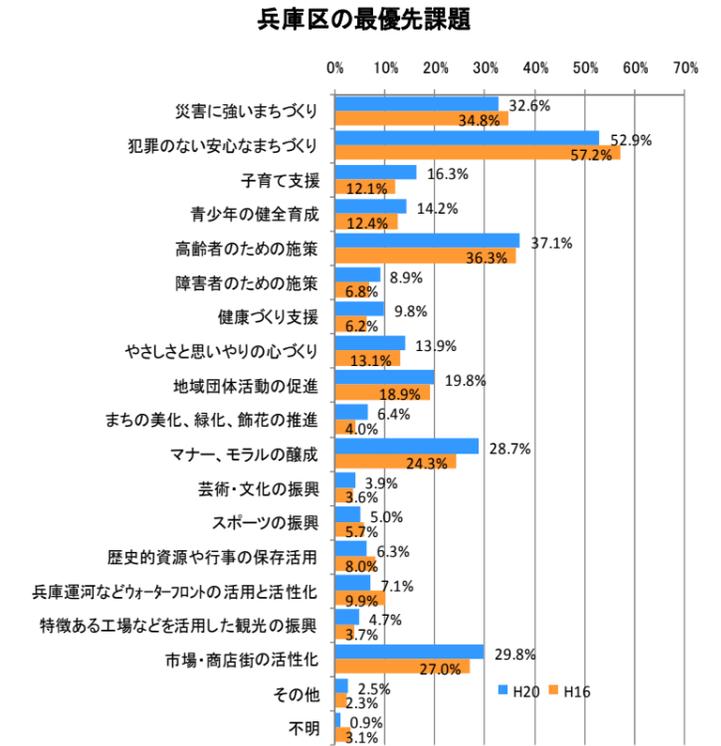
2. 兵庫区の魅力

- ・平成 20 年度に行った区民アンケートでは、「市場・商店街」を挙げた方が2/3を占めています。次いで「下町情緒」「地域活動等」「山林や自然」と続きますが、いずれもまんべんなく回答が集まっています。
- ・兵庫区は、北部、中部、南部と、特徴や性格の異なる市街地で構成されています。北部在住の方は「山林や自然」「市場・商店街」、中部在住の方は「市場・商店街」、南部在住の方は「海や川・運河」「スポーツ環境」を魅力と回答する比率が高くなっています。
- ・兵庫区全体の魅力を高めていくためには、これら特徴のある市街地や魅力資源の交流ネットワークを充実していくことが重要です。



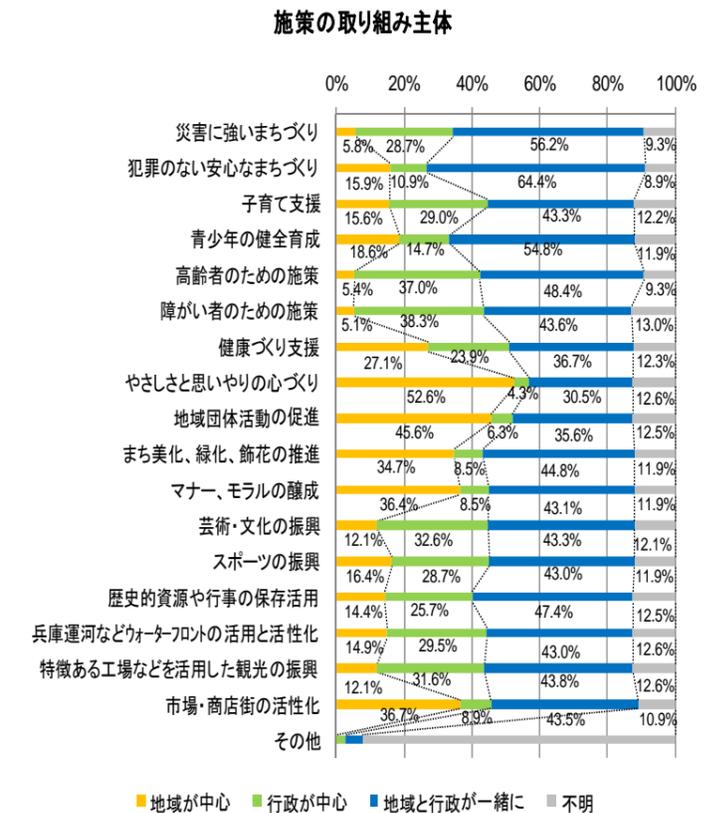
3. 兵庫区的最優先課題

- ・平成 20 年度に行った区民アンケートでは、「犯罪のない安心なまちづくり」を挙げた方が過半数を超えています。次いで「高齢者のための施策」「災害に強いまちづくり」「市場・商店街の活性化」「マナー、モラルの醸成」となっています。
- ・前回 (H16) と比べると、「犯罪のない安心なまちづくり」が約 4 ポイント減少し、「マナー・モラルの醸成」のポイントが約4ポイント上昇しています。
- ・「安全・安心に暮らせるまち」への取り組みについて、少しずつ評価はされてきていますが、引き続き取り組みを続けていくことが必要です。
- ・また、「マナー・モラルの醸成」へのよりいっそうの取り組みが必要で、「安心して暮らせる」「住み続けたい」兵庫のまちにつながっていく重要な課題と考えられます。



4. 兵庫区における施策の取り組み主体

- ・平成 20 年度に行った区民アンケートでは、どの項目も、概ね半数近くの方が「地域と行政が一緒になって」取り組むと考えています。
- ・とりわけ「犯罪のない安心なまちづくり」「災害に強いまちづくり」や「青少年の健全育成」では「地域と行政が一緒になって」取り組むと考えている区民が多くなっています。
- ・地域が中心となって取り組むべき課題としては、「やさしさと思いやりの心づくり」「地域団体活動の促進」「市場・商店街の活性化」「マナー、モラルの醸成」「まちの美化、緑化、飾花の推進」などを考えている方が比較的多くなっています。
- ・行政が中心になって取り組むべき課題としては、「障がい者のための施策」「高齢者のための施策」「芸術・文化の振興」「特徴ある工場などを活用した観光の振興」などを考えている方が比較的多くなっています。



●兵庫区の将来像（案）

1. 基本的な考え方

- ・兵庫区では、2010年を目標年次とする区別計画、そのまちづくりの指針である中期計画に基づき、行政による各プロジェクトが具体化し、地域主体のまちづくりが活発化するなかで、いろいろな成果が現れてきています。
- ・2025年を目標年次とする兵庫区計画では、これまでの取り組み・成果をうまく活用し、また補いながら、より魅力的な兵庫区をめざしていきます。
- ・南北に大きく、異なる特徴を持つ北部・中部・南部の地域で構成されるのが兵庫区の特徴です。それぞれの魅力を活かしつつ相互の交流や一体感を高めることで、兵庫区全体として魅力あるまちづくりの実現をめざしていきます。
- ・地域活動が盛んで人情味溢れる兵庫区民との協働と参画をよりいっそうすすめていきます。

2. まちづくりの基本方針



「やさしさと思いやりのまち 兵庫」

を引き続きまちづくりの基本方針として、大きく育てていきます。

3. 施策の体系

(1) まちづくりの目標

- ①いつまでも住み続けたいまちづくり
- ②ともに長寿を喜びあえるまちづくり
- ③歴史と自然を活かした潤いのあるまちづくり
- ④文化・スポーツ活動の盛んな明るいまちづくり
- ⑤活力あふれるまちづくり

(2) 施策のテーマ

- ①安全に安心して暮らせるまち
- ②育ち・育む 支えあいのまち
- ③活力みなぎる魅力ゆたかなまち

(3) まちづくりの推進方策

- ①協働による区政の推進
- ②北部・中部・南部の交流の“わ”づくり
- ③公的施設の再編機会を活かしたまちづくり

4. 地域別の将来方向

(1) 北部

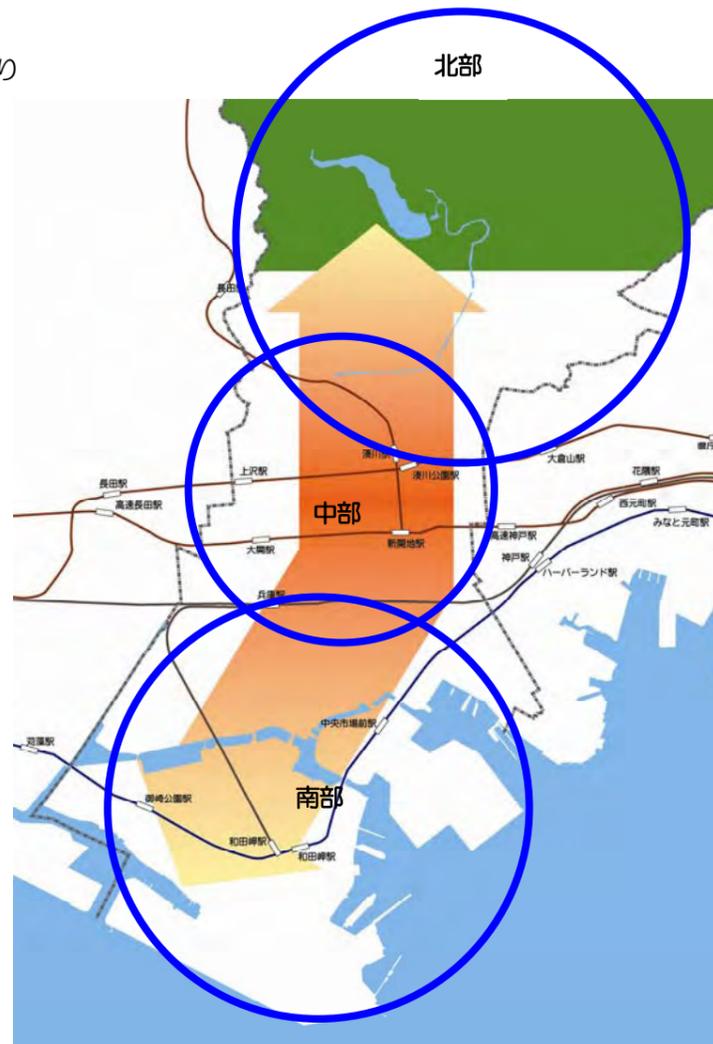
- ・閑静で住みよい、いれあいのまち
- ・水と緑と歴史に恵まれたまち

(2) 中部

- ・区の中核としての機能をもつまち
- ・商業や文化活動の盛んなにぎわいのまち

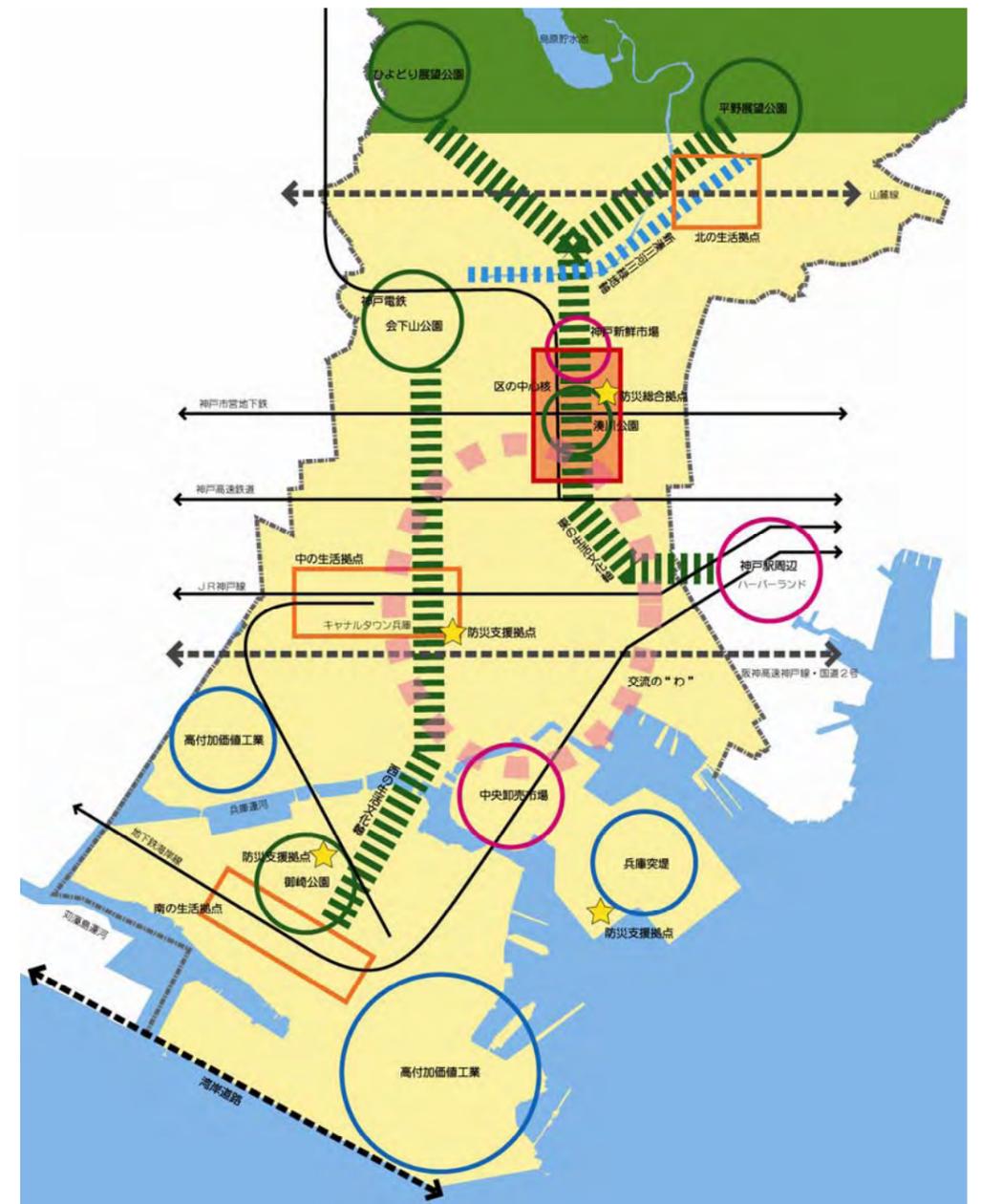
(3) 南部

- ・産業と生活の調和するまち
- ・兵庫津の歴史とウォーターフロントに親しめるまち



5. 将来構想図

- ・北部地域では、豊かな自然や新湊川河川緑地軸を活かした散策路やオープンスペースを整備するとともに、安全で安心して暮らせるまちづくりを進めます。
- ・中部地域では北部からつながる東の生活文化軸を形成する湊川周辺や新開地周辺のまちづくりを進めます。
- ・南部地域では兵庫運河を軸に、歴史や水辺の魅力を活かしたまちづくりや大規模な土地利用転換に対応したまちづくりを進めます。
- ・神戸駅周辺につながる東の生活文化軸と、様々な施設や機能が集まる兵庫駅周辺を南北につなぐ西の生活文化軸を交流の“わ”で結び、北部・中部・南部の魅力・活力を区民みんなで共有・活用することで、兵庫区全体の活力を創出していきます。
- ・区の南北交流の結び目であり、区の中心核である湊川公園周辺や新たな魅力ゾーンとなる中央卸売市場西側跡地等の整備を進めます。



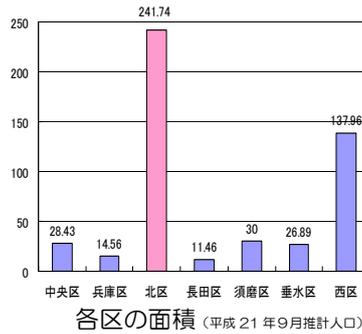
北区計画 総論案

(中間報告資料)

北区の現状と課題

区域

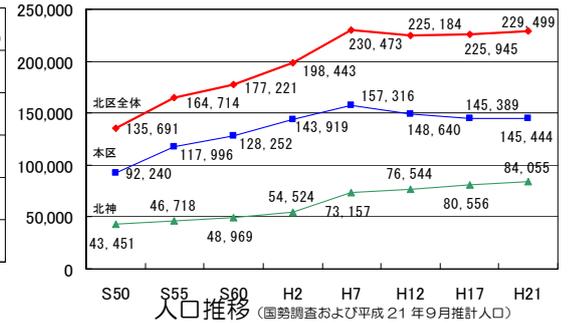
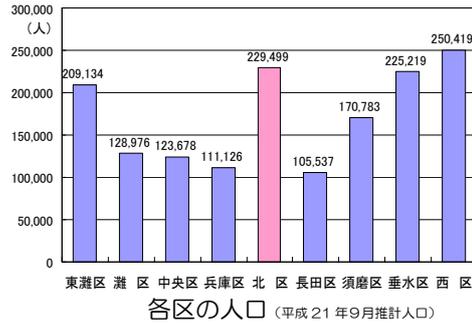
北区は昭和48年に兵庫区から分離してできた区で、全市の約4.4%にあたる面積を占め、9区の中で最大であり、垂水区以外の各区及び芦屋市、西宮市、宝塚市、三田市、三木市といった周辺の5市と境界を接しています。



北区の区域

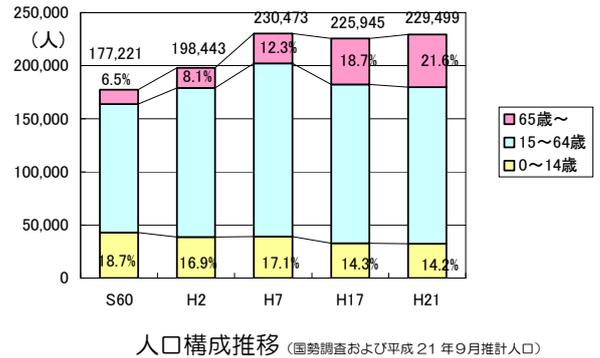
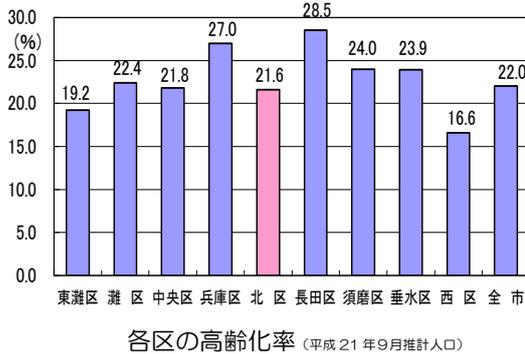
人口

昭和48年の分区当時の人口は、117,318人でしたが、大規模な住宅団地の開発等により、現在では西区に次ぎ、全市で第2位となっています。



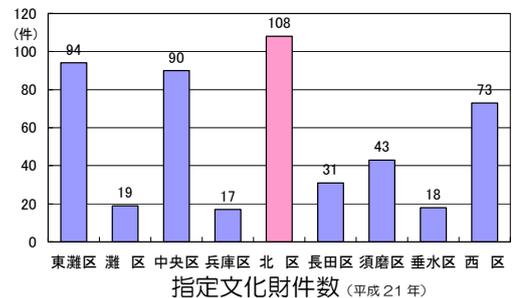
人口構成

高齢化率は、神戸市の平均とほぼ同じ値ですが、高齢化率は上昇し20%を超えており、また少子化については、14歳以下の人口が15%を割っています。



自然・文化

北区は、六甲山の北側、帝釈・丹生山系に広がっており、他の大都市には見られないほどの豊かな自然が残っています。また、歴史に関する名所・旧跡・伝統行事等がたくさんあります。



棚田 (大沢町)



石峯寺 (淡河町)



茅葺き民家 (八多町)

観光

日本最古の温泉である有馬温泉をはじめ、たくさんの観光資源があります。



フルーツフラワーパーク



有馬温泉

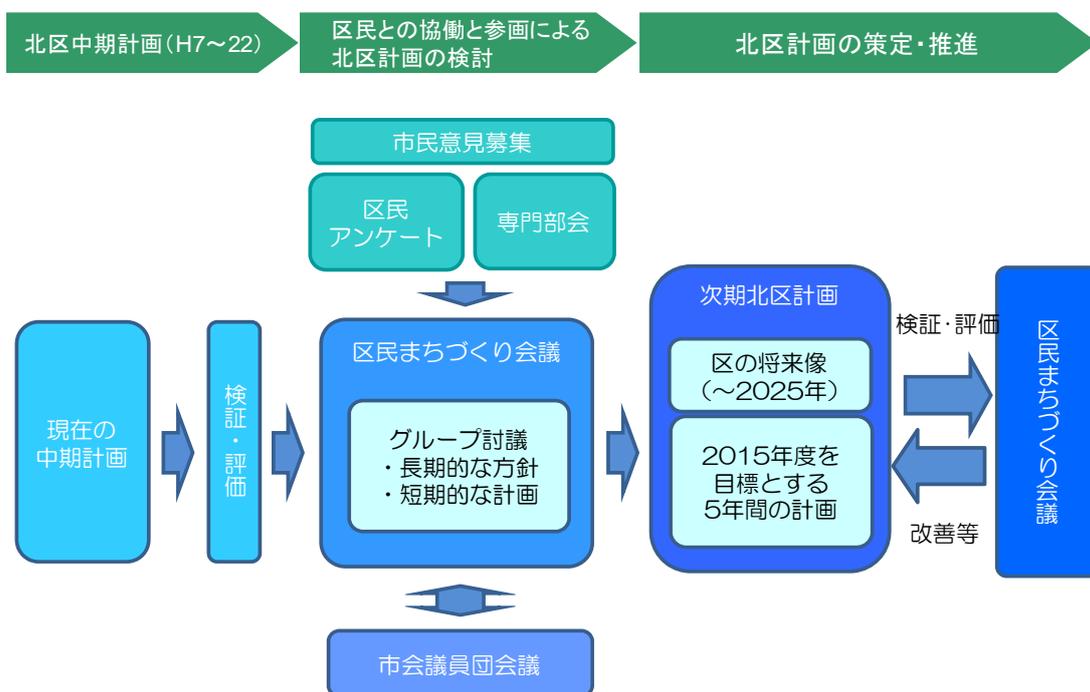


北区計画の策定にあたって

北区計画は、区の個性、地域特性を活かし、生活に密着した分野を中心に、区民との協働により取り組んでいくための計画として、区民や地域団体等の意見を聞きながら、区民まちづくり会議が中心となって策定します。

また、北区計画の推進にあたっては、区民まちづくり会議が検証・評価し、その結果を踏まえて改善等に取り組むPDCA サイクル（Plan 計画・Do 実行・Check 評価・Action 改善）により進行管理を行います。

策定の流れ



中期計画の検証・評価

現行の中期計画では、重点的に取り組むテーマごとに、まちづくり指標を定め、毎年検証評価を行ってきました。

(右図：平成20年度の中期計画検証・評価結果)

重点を置いて取り組むテーマ	評価
①住民が主役のまちづくり	A
②活力あふれる安全・安心のまちづくり	A
③美しいまちの推進	A
④健康づくりと福祉の充実	A
⑤安心して子育てできるまちづくり	B
⑥「農」のある北区づくり	B
⑦北区の魅力と情報発信	A

区民アンケート

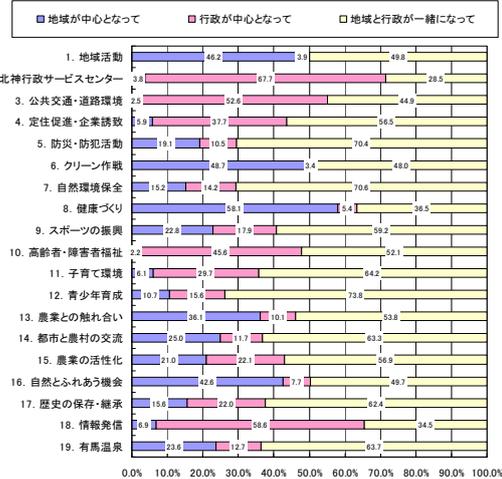
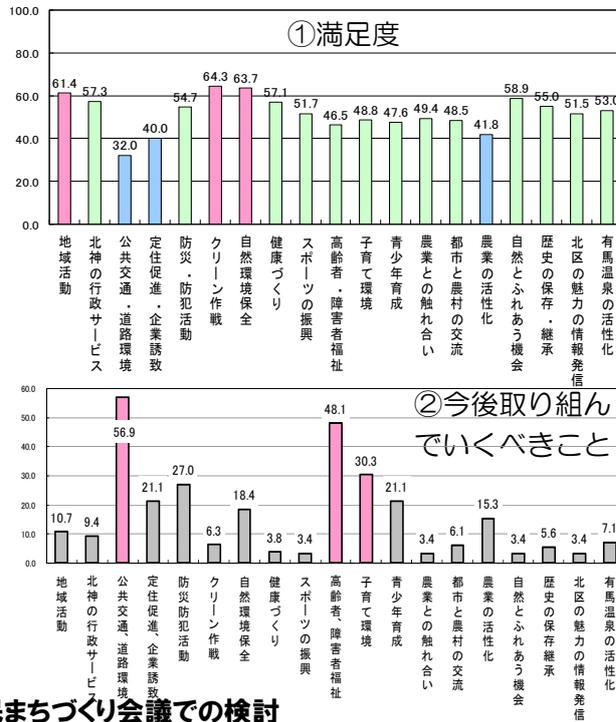
策定にあたって、アンケート調査を行いました。

対象者：2,716名（無作為抽出、地域団体、小中学生）

回答者：1,529名（回答率 56.2%）

調査時期：平成21年3月から4月末

調査内容：①満足度 ②今後取り組んでいくべきこと ③取り組みの主体について



区民まちづくり会議での検討

区民まちづくり会議を中心にワークショップを開催しました。

◆第1回ワークショップ

開催日時：平成21年9月15日（火）14:00～16:30

会場：北区民センターすずらんホール（大ホール）

参加者：北区民まちづくり会議委員 35名（6グループ）

内容：長期的な方針について

「北区のいいところ、気になるところ」「よりよい北区の将来像」

◆第2回ワークショップ

開催日時：平成21年11月4日（水）13:30～16:00

会場：北区民センターすずらんホール（大ホール）

参加者：北区民まちづくり会議委員 31名（6グループ）

内容：短期的な計画について

「重点テーマ実現のための具体的取り組みとその主体、検証評価方法」

専門部会での検討

北区の大きな特色である「農業」と「観光（有馬温泉）」について、専門的な議論や意見を伺いました。

◆農業部会

開催日時：平成21年11月27日（金）13:30～15:00

会場：北神中央ビル

参加者：農業部会員 5名

内容：「現行の北区中期計画での取り組み」や「農業活性化における課題と今後の展望等」についての意見交換

◆観光部会

開催日時：平成21年12月（予定）

会場：有馬温泉観光協会

参加者：有馬温泉観光協会理事

内容：「現行の北区中期計画での取り組み」や「観光活性化における課題と今後の展望等」についての意見交換

北区の将来像

人が集い 安心して暮らせる 魅力あふれる 緑のまち 北区

を引き続き将来像として取り組んでいきます。

◆ 人が集う まち

人と人とのつながりを大切にし、農村地域とニュータウンなどの都市部との地域連携・地域交流を促進し、人・もの・情報が行き交い、暮らす人・訪れる人など多くの人が集うまちづくりを進めます。

◆ 安心して暮らせる まち

広い区域、地形、まちの成り立ちなど北区の地域特性を考慮したうえで、交通環境の向上などの日常生活における利便性・安全性を高め、あらゆる世代が将来にわたって安心して暮らせるまちづくりを進めます。

◆ 魅力あふれる まち

北区には、名所旧跡や伝統芸能などの歴史文化資源、全国的に有名な有馬温泉を代表とする観光資源など特徴的な魅力が多くあり、これらを活用した魅力あふれるまちづくりを進めます。

◆ 緑の まち

北区は、多くの山林や都市部に近接した農村地域など、豊かな自然に恵まれた緑のまちであり、環境マナー先進地であるこの北区の美しい環境を、次世代のため守り育てていくまちづくりを進めます。

将来像の実現に向けて

◆ 5年間の重点テーマ

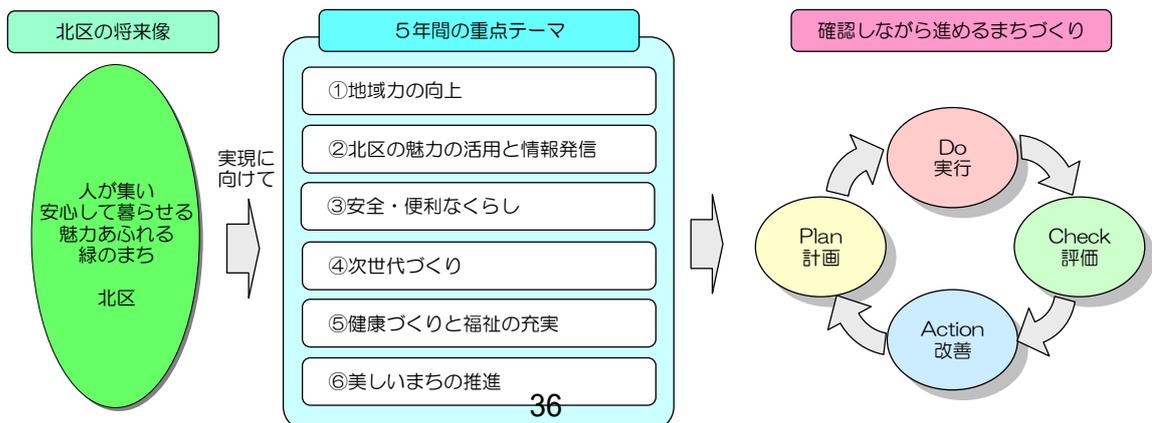
将来像の実現に向けて、2015年度までの5年間において、重点的に取り組む6つのテーマを設定し、具体的に取り組んでいきます。

- ①地域力の向上
- ②北区の魅力の活用と情報発信
- ③安全・便利なくらし
- ④次世代づくり
- ⑤健康づくりと福祉の充実
- ⑥美しいまちの推進

◆ 確認しながら進めるまちづくり

また、計画を進めるうえで、常に進捗や成果を確かめながら、課題の解決、新たなニーズへの対応、また、着実に成果をあげている取り組みを更に活かすなど、計画の実現度合いを確認しながら、まちづくりを進めていきます。

<北区計画体系のイメージ>



長田区計画 総論案

(中間報告資料)

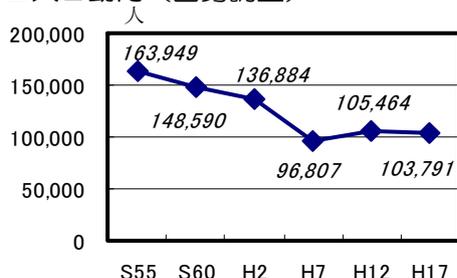
長田区計画 将来像と柱について

■区の現状

(1) 統計データ

- 長田区の人口は減り続けてはいるものの、現在はその減少傾向は鈍化している。
- 5歳階級別の人口分布から、子どもが少なくなり、高齢者が増えているいわゆる少子高齢化が進んでいる。(高齢化率 28%台、15歳未満人口率 10%台)

■人口動向（国勢調査）

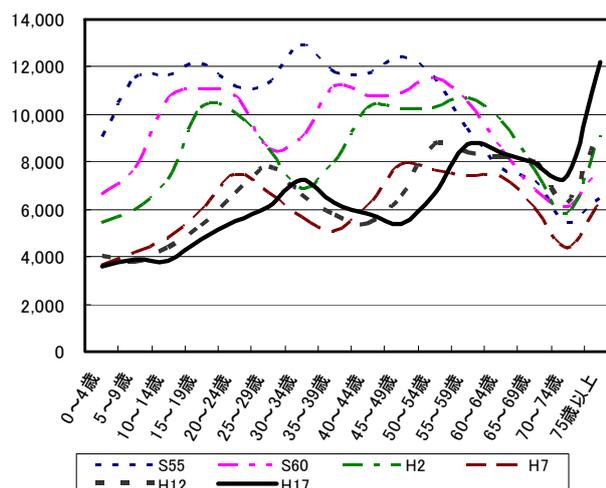


■現在の統計データ（推計人口）

平成 21 年 10 月 1 日現在

人口	101,518 人
世帯数	48,111 世帯
1世帯当たりの人員	2.11

■5歳階級別人口分布動向（国勢調査）



(2) 区民アンケート

- ・平成 21 年 3 月から 4 月にかけて、区民無作為抽出 1,376 名および区民まちづくり会議委員、区老連、区連合婦人会 158 名を対象に実施。有効回答数 435 回答率 28.4%。
- ・長田区のまちづくりの方向性やこれから 5 年間で取り組むべきことなどについて区民のニーズを把握した。

キーワード

高齢者、子ども、防犯・防災、安全・安心、美しいまち、自然、空地・空家、イベント、見守り、活気、にぎわい、楽しい、協力など

■長田区の将来像について（まちづくりの方向性）

上位 5 位

高齢者・障がい者が安心してくらせるまち	32.2%
市場・商店街に活気がある、にぎわいのあるまち	32.0%
防犯・防災活動がさかんな安全で安心してくらせるまち	29.2%
子どもを安心して育てることができるまち	27.4%
清掃・美化活動などがさかん美しいまち	16.3%

■これから 5 年間で取り組むべきこと

上位 10 位

清掃・美化活動への支援など「美しいまち長田」の取り組み	52.6%
参加してみたいような楽しいイベントの開催	51.5%
「あいさつ運動」や「防犯パトロール」など防犯活動への協力	44.8%
高齢者を見守る活動の実施	43.7%
震災等で放置された空き家の解消・空き地の有効活用への支援	42.8%
違法駐車・駐輪に対する取り組み	39.8%
障がい者が安心して暮らせる施策	33.1%
山、川、海など自然を守り育てる活動への協力	31.7%
子どもたちが参加できるイベントの開催	31.5%
青少年の見守り活動への協力	31.0%

(3) イベントアンケート

- ①長田のまちアンケート（現状分析）合計 127 名
 - ・7/11 星の盆、7/18 夏越ゆかた祭で、参加者を対象に、長田の好感度、住みやすさ、イメージについて、良いか悪いかシールを貼ってもらった。
 - また「ここがええ」「ここがあかん」ところを尋ねた。



- 好感度と住みやすさは概ね良好であるが、イメージは好感度と比較すると良好度合が若干劣る傾向にある。
- 好感度やイメージは区内住民のほうが区外住民より良好度合が高い。

「ここがええ」「ここがあかん」キーワード

祭りが多い、やさしい、物価がやすい、人がいい、笑顔がよい、おいしい食物、人情がある、マナーが悪い、自転車マナーが悪い、ガラが悪い、下品、坂（北部）が多い、 など

②短冊アンケート（将来像） 合計 210 件

- ・七夕の前後に「長田のまちが〇〇〇まちになりますように」という題で、イベント時、長田区シンポジウム時、婦人会等に短冊に願いを書いてもらった。



- 短冊には、「楽しいまち」「元気なまち」「安全・安心なまち」「明るいまち」などの願いが多い。

短冊に書かれたキーワード

楽しい、明るい、安全・安心、住みよい、住みやすい、活気ある、美しい、きれいな、笑顔、やさしい、にぎやか、自然・緑・花、豊かな、子ども、おもしろい、 など

■策定に向けた検討の経緯

（１）区民まちづくり会議

①長田区シンポジウム 7/21 来場者 295 名

- ・パネルディスカッションで、パネラー5名（各部会長、連合婦人会長）に「これからの長田」をボードに記入してもらった。



- 「自然豊かなまち 長田」「老いも若きも和やかなまち 長田」「人情味豊かな子ども笑顔があふれるまち 長田」「官民力をあわせて豊かなまち 長田」「笑顔あふれる素敵なまち 長田」

②合同部会ワークショップ 2回開催 延 54 名

- ・10/5 長田区の現状とおすすめのアイデア出し、将来像
- ・10/14 アイデア出しと将来像の整理、その重み付け

- アイデアを15のキーワードと50の項目に分類し、重み付けを行った結果、観光PR強化、地域力の強化・交流、大学との連携、美しいまちの環境整備などが上位にランクされた。



- 将来像では、イメージアップ、UD、コミュニティ、活性化に関するものが多かった。

（２）区役所内での検討

- ・長田区検討会議（区長を中心とした会議） 計3回
- ・長田区検討ワーキング（課長級以下の会議） 計13回 で検討。

現状要約

- ※人情が厚く、やさしさがあふれる下町のイメージが強い。
- ※まちの資源・文化が多い。また、自然が豊かで、緑や花が増えてきている。
- ※マナーが悪い、ガラが悪いと思っている人が多い。
- ※住みやすく、好感度が高いが、イメージが良くない。

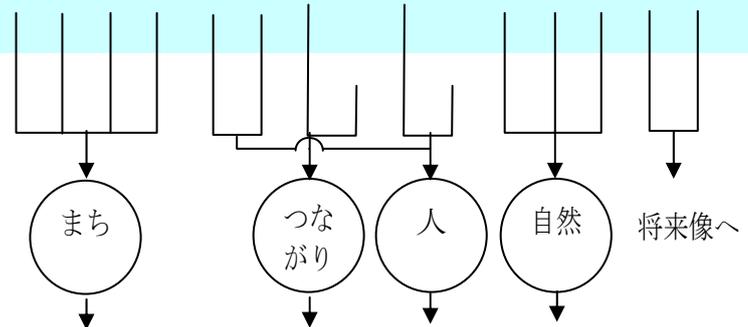
区民まちづくり会議 合同部会ワークショップ結果

将来像 重み付け上位

- 老いも若きも和やかなまち
- としよりと子どもが
共に楽しくすごすまち
- また来て見たい、
ほんでみたいと思えるまち
- 三世代がふれあうまち
など

アイデアの整理

- ① わがまち意識
- ② イメージマップ
- ③ 自然
- ④ 花とみどり
- ⑤ 美しいまち
- ⑥ 高齢者・子ども・子育て
- ⑦ UR
- ⑧ 人情・コミュニティ・交流
- ⑨ 大学連携
- ⑩ 安全・安心
- ⑪ 健康・スポーツ
- ⑫ 商店街の活性化
- ⑬ 観光
- ⑭ 歴史・文化
- ⑮ 産業



将来像 の抽出

長田がわかる
インパクトの
あるものに！

4つの柱に集約
(将来像を補完する)

長田区
の
現状

アンケート
による
キーワード

■区計画の将来像と柱

●将来像

世界に誇れ

食と鉄人

「グー」なまち 長田



長田には誇れるものがある。厚い人情、下町の雰囲気、そばめしやぼっかけなどの食文化、韓国・朝鮮、ベトナムなど多彩な文化、さかんに活動しているUD。音楽会や祭も多く、それに携わる人も多い。そしていまや全国的に知名度の高い鉄人28号などのキャラクター。このように、日本で誇れる！世界にも誇れる！ものがたくさんある。それらよき(good)ところを世界に知らしめ、震災から立ち上がってきた長田を見てもらいたい。よきものは広め、よきものを増やしていくことがこれからの長田には必要だ！

鉄人28号モニュメントには、震災から立ち上がっていく様子を右手の「グー」に託している。また、長田神社前のキャラクター「グー」ジーも福をもたらすふくろうとして活躍中である。そしてgoodの「グー」。「グー」に力をこめて、これからもがんばっていこう！

まずは、「食」と「鉄人」で！！

●4つの柱のコンセプト

【人・まち・自然がつながって・・・】

「人」は“お年寄り”も“子ども”も“楽しく”“元気”で

「まち」は“安全・安心”で、明るく“活気”にあふれ

「自然」“豊か”で区に“うるおい”をもたらす

人・まち・自然が互いに「つながって」、

“魅力”がたくさん生まれ、

“笑顔”が“笑顔”を呼び、

“人情”味のある長田の花が咲き誇る。



●今回の計画のポイント

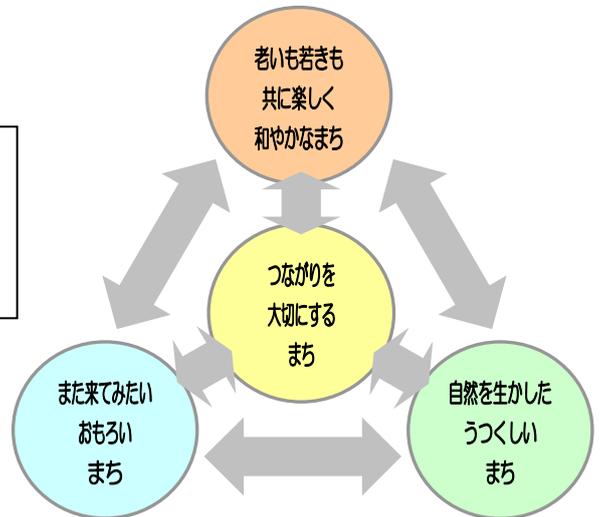
●人、まち、自然を大切に、相互の交流、連携を重点に置いた施策を展開する。

●住むことを中心とした計画に、区外から人が来てもらえる仕掛けづくり、また、来てもらうためのおもてなしを積極的に推進する計画を盛り込む。

● 4つの柱

- ★ 人：老いも若きも共に楽しく和やかなまち
- ★ まち：また来てみたいおもしろいまち
- ★ 自然：自然を生かしたうつくしいまち
- ★ つながり：つながりを大切にするまち

これら4つの柱が相互に関わり合い、助け合い、融合しあいながら、長田のまちが魅力あるものに、そしてみんな笑顔で過ごせるまちになるよう、区民・大学・産業・行政が協働で取り組んでいく。



老いも若きも共に楽しく和やかなまち 長田



高齢者も子どもも、障がい者も外国人もだれもが楽しく過ごすためには、お互いに尊重し合いながら、安全で安心な環境を創造していく必要がある。そのためには、それぞれの環境に合った施策が必要であるとともに、相互の交流や連携により、お互いを知ることが大切である。

そこで、子育て環境、高齢者の居場所などを整備するとともに、高齢者と子ども（子育て世代）の交流をはじめ、地域における交流を推進する。

また、長田で先駆的に進めているUDや多文化共生にも力を入れていく。老いも若きも共に楽しく和やかなまちの実現にあたっては、健康であることが何よりも大切であり、健康を維持する方策やスポーツの充実を図る。

また来てみたいおもしろいまち 長田



長田に来てもらうために、まず今ある資源を生かしたり、発見したり、さらには新たに生み出すことも含め、まちの魅力を最大限に発掘し、それらを整理する。そして、その長田の魅力資源を広くPRしていく取り組みにより「長田に行ってみよう」と思うきっかけづくり、さらには「また来てみたい」と思えるようなまちづくりを推進していくことが必要である。

鉄人28号や旧二葉小学校、長田神社前のシンボルキャラクターであるグーギーなどを軸におもてなしの心を持ってイベントなどを展開していく。

自然を生かしたうつくしいまち 長田



長田には、山・川・緑などの自然が豊かにある。その自然を生かし、地域力を高めていく。例えば、獅子ヶ池周辺や新湊川などの活動を通じて、地域内の交流を進め、区内の北部と南部の交流につなげていく。

また、花や緑を増やすため、「緑のカーテン」づくりや空地の緑化などを重点的に取り組み、うるおいのあるまちづくりを行う。

一方で、ゴミ捨てなどのマナー全般の向上に向けて、区民一人ひとりの意識を高め、まちやくらしをデザインする視点から、美しいまちを演出する。

つながりを大切にするまち 長田



長田の特徴である人情は、地域において人と人とのふれあいが大切にされ、近所づきあい（コミュニケーション）が行われていることである。このふれあいの和をより一層広く、そして深めていくことが、助け合いにつながり、やさしさを育み、地域力の強化につながる。それにより、地域における暮らしをより一層豊かにし、安全で安心な住みよい環境を作っていくことになる。

そこで、大学や高校との連携や世代間交流などを積極的に行っていく。

須磨区計画 総論案

(中間報告資料)

2025年の将来像および2015年までに取り組む重点テーマ

須磨区の現状と課題

1. 須磨のすがた

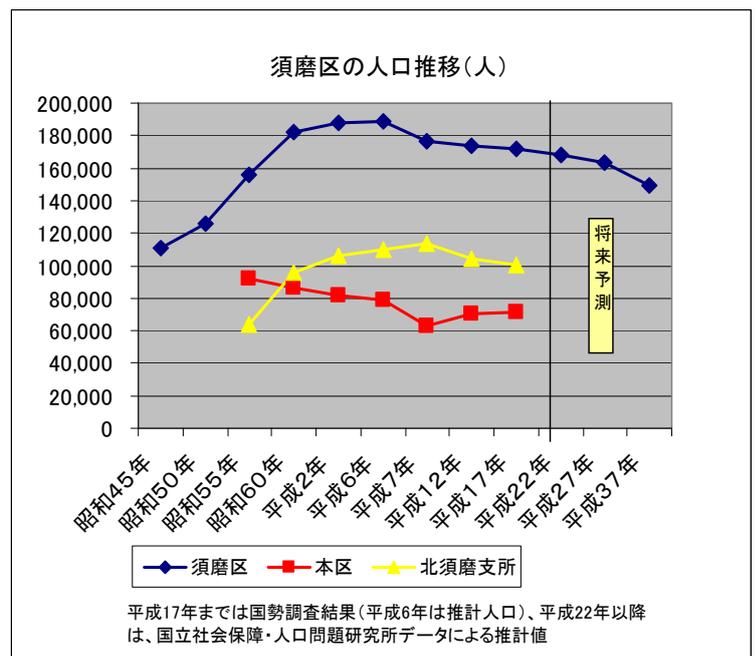
須磨は、古くから開けた南部の市街地と北部のニュータウンと大きく2つの地域で構成されています。区内には、白砂青松の須磨海岸や須磨アルプス、妙法寺川などの身近な自然環境がまちに隣接し、源平合戦や源氏物語などの歴史、文学を語る史跡、名所がいたるところにたたずみ、古から風光明媚な住みよい土地柄としても知られています。このような環境の中、須磨の人々は、身近な自然や歴史に寄り添いながら暮らしてきたと言えます。



2. 区の人口

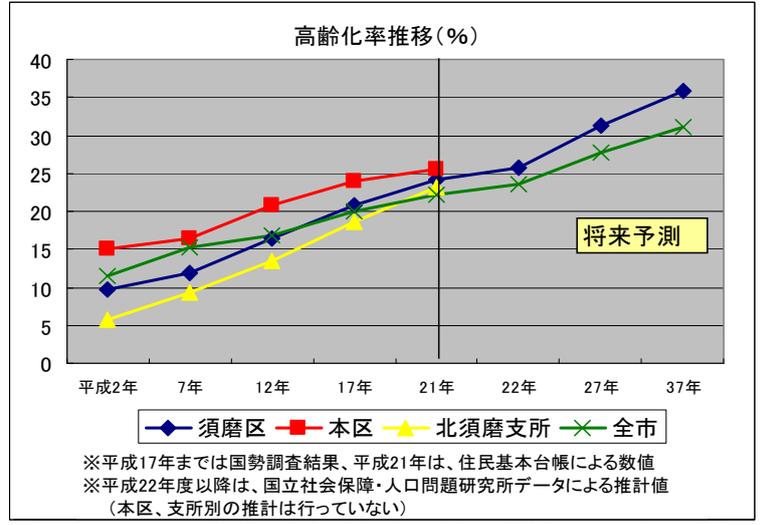
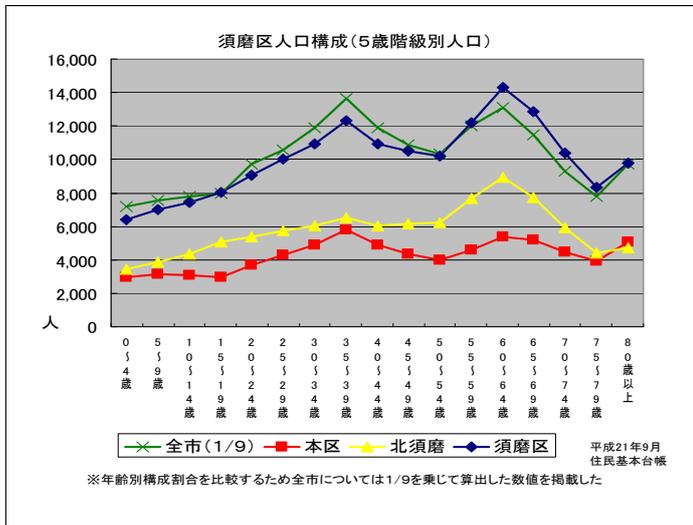
○須磨区の人口は、須磨ニュータウンの開発に伴い、昭和50年代から急増していましたが、60年代からは、横ばいとなり、平成6年の約18万9千人をピークに微減の傾向が続き、現在、約16万8千人となっています。北須磨支所管内では減少していますが、本区では近年、下げ止まりが見られます。

○須磨区の年齢別の人口構成に関しては、全市平均と比べて、20代から40代の人口が少なく、60代以上の人口が多くなっています。特に北須磨支所管内では、60代前半のいわゆる「団塊の世代」の割合が高いことが特徴です。また、本区では、35歳前後の「子育て世代」の割合が高いと言えます。



○区全体では、少子高齢化が進んでおり、本区、北須磨支所管内ともに、高齢化率は全市平均を上回っており、高齢化率が40%を超える地域も出てきています。特に、北部のニュータウンでは、子どもの減少などが見られるとともに、急速に高齢化が進んでいます。

○将来的な人口の減少や超高齢化が予測されるなか、地域における支え合いなどを念頭に置きながら、「元気な高齢者」など多様な年齢層による地域活動の担い手づくりを進めることが必要です。



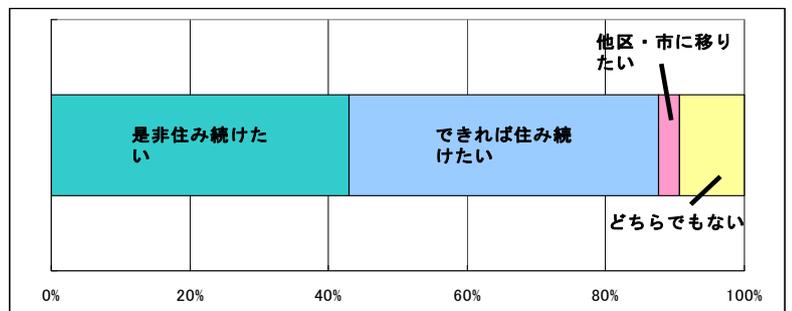
3. 区民のまちへの思い

(1) 区民まちづくりアンケート

期間：平成21年1月29日～2月25日
対象：20歳以上の須磨区民 約3,300人
回収数：1,014件(30.7%)

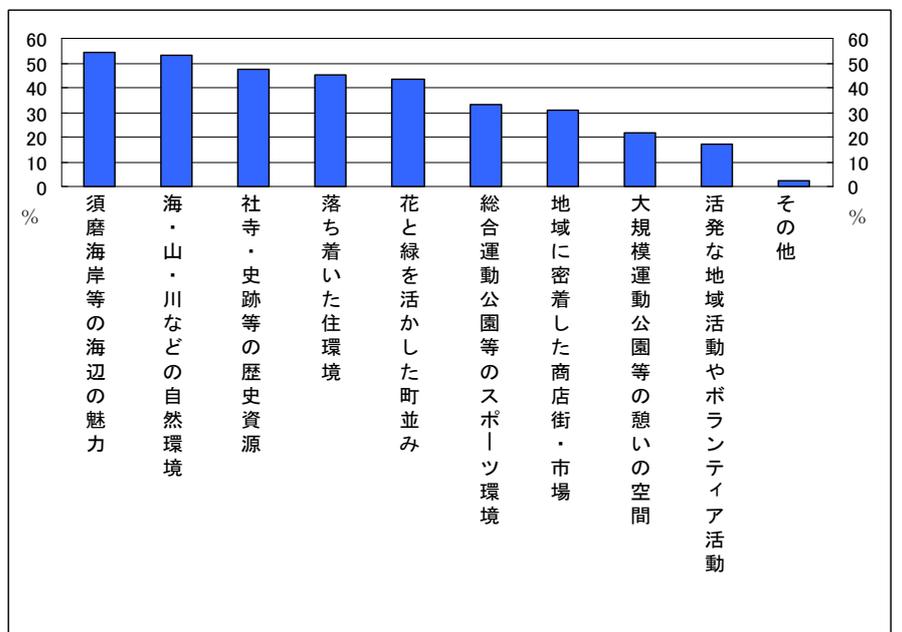
◆住み続けたいまち

87.7%の区民が「住み続けたい」としており、住みよいまちとして高い評価が得られました。



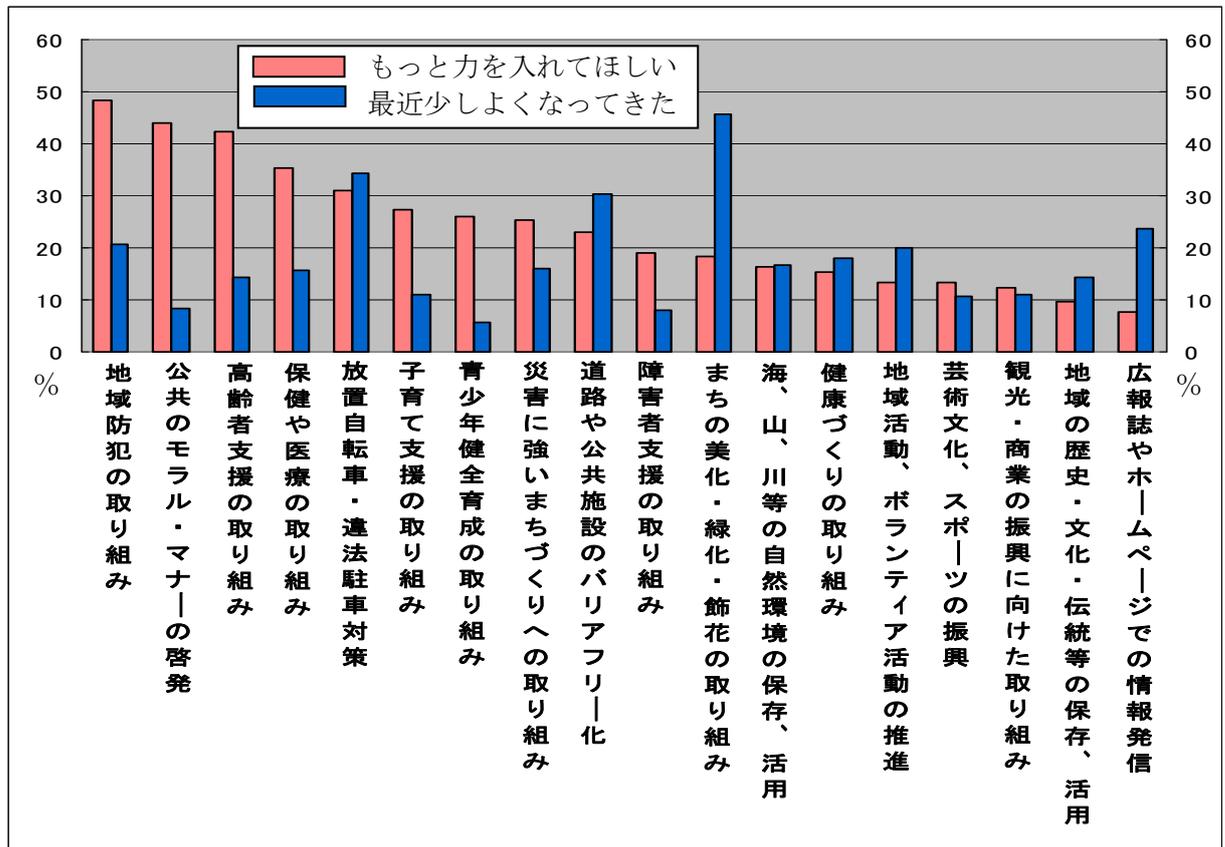
◆伸ばしたい須磨区の特徴・魅力

「須磨海岸等の海辺の魅力」
「海・山・川などの自然環境」
「社寺・史跡等の歴史資源」、
「落ち着いた住環境」の
順で意見が寄せられました。



◆まちづくりへの取り組み

- 「もっと力を入れてほしいと思うもの」に関しては、「地域防犯の取り組み」「公共のマナーモラルの啓発」「高齢者支援」の順で高くなっています。特に、「地域防犯」に関しては、前回調査（平成16年）に比べて低くなっているものの依然として高いニーズがあります。「公共のモラル・マナー啓発」に対しては、前回調査に比べてニーズが増加しています。
- 「最近、少しずつ良くなってきたと感じるもの」に関しては、「まちの美化・緑化・飾花の取り組み」が高い評価を得られており、地道な取り組みが成果につながってきています。また、「放置自転車・違法駐車対策」「道路・施設のバリアフリー化」にも評価が寄せられています。



(2) 区民まちづくりシンポジウム

“区民の情熱と力によるまちづくり”をテーマに「住みよいまちづくり」や「魅力の発掘・発信の取り組み」、「自然環境を次世代に引き継ぐ取り組み」などについて、区民まちづくり会議委員から、今後の方向性を踏まえた具体的な発表がありました。

日時：平成21年7月16日 10:00～11:40
 場所：須磨区民センター4階 大ホール
 参加数：約250人



主な発表内容

- ◆地域活動の最終目標は、「人と人との絆」を形成することである
- ◆行政と地域がそれぞれの役割をしっかりと果たしていくことが必要である
- ◆様々な取り組みの主体は地域であり、「みんなで支えあう」ことが大切である
- ◆次の世代の人たちが誇りを持てるような地域づくりをめざしていきたい
- ◆地域団体相互が連携して取り組みを進めることが、地域活性につながる
- ◆自分たちでできることを自分たちで進め、その活動の広がりにより、人の輪が形成され、これを継続することで、まちが元気になる

(3) 区民まちづくりワークショップ

区民まちづくり会議の委員や須磨区内で地域活動を行っている区民リーダー、須磨区在住の大学生を対象に、須磨区の現状と課題、その解決方法などに関する意見交換を行いました。

対 象	日時・テーマ	主な意見の内容
<p>区民リーダー</p> <p>(防犯・防災、健康づくり・子育てなどの分野で活動する区民リーダーが参加)</p>	<p><日時> 平成21年 9月12日 13:30~16:00</p> <p><テーマ> 須磨らしい連携の取り組みを考えよう</p>	<p>>>活動の悩みなど<<</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆スタッフや役員が高齢化・固定化している ◆ニュータウンの住民に、須磨の歴史や文化の情報が行き渡っていない ◆地域間、リーダー相互の横のつながりが不足している <p>>>これから必要なこと<<</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇地域を知り、地域性を活かした取り組み ◇異世代が交流しながら、ともに楽しめる取り組み ◇催しの企画段階から若年層に参画してもらう仕組みづくり ◇地域愛をさらに醸成するための、地域主体・連携によるまつりの実施 
<p>大学生</p> <p>(神戸女子大学・神戸学院大学の学生が参加)</p>	<p><日時> 平成21年 9月16日 14:00~16:00</p> <p><テーマ> 須磨のPRをしよう!</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆須磨北部のニュータウンの魅力資源発掘と南部と北部を回遊するルート設定 ◆カップルや若い女性をターゲットにした「歴史カフェの設置」「夜景スポットのPR」 
<p>区民まちづくり会議委員</p>	<p><日時> 平成21年 9月28日 14:00~16:00</p> <p><テーマ> 伸ばしたい須磨区の魅力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆区民が須磨の魅力を知り、来訪者へのおもてなしにつなげることが必要 ◆まちをとにかく、きれいにする ◆ウォーキングルートのネットワーク化や愛称をつけるなどにより「まち歩き」を楽しめる工夫が必要
<p>(区民まちづくり会議委員他が参加)</p>	<p><日時> 平成21年 9月29日 14:00~16:00</p> <p><テーマ> 誰もが笑顔で安心して暮らせるまち</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域対抗のイベント、3世代参加のまつり等で交流を図る ◆防災活動なども楽しみを加えるなどの工夫で活性化する ◆無理なく継続できるような取り組み ◆親世代が「見るだけ」から「次の一歩」へ踏み出せる工夫、仕組みづくりが必要 

(4) 区中期計画における取り組み

次期計画の策定にあたっては、区民との協働で策定し、ともに取り組んできた「須磨区中期計画」におけるこれまでの取り組み、課題を踏まえておく必要があります。

中期計画では、以下の6つの重点テーマを設定し、毎年度、区民まちづくり会議での検証・評価を得ながら、課題と方向性を定め、地域での地道な取り組みを進めています。

安全・安心のまち

これまでの取り組み	検証・評価における課題と方向性
<ul style="list-style-type: none"> ○須磨区防犯アカデミーによる地域防犯リーダーの養成とその活動支援 ○地域主体による防犯パトロール、見守り活動の積極的な実施 ○須磨海岸における津波対策 ○防コミによる小学生を対象にした「ジュニア防災学習」実施 ○災害時要援護者支援モデル事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◆各地域において自主的に防犯・防災活動が展開できるよう情報提供や住民相互のネットワーク形成のための取り組みを進める ◆災害時の要援護者支援体制の検討を進める ◆須磨海岸や妙法寺川等における防災対策に継続して取り組む

人にやさしいまち

<ul style="list-style-type: none"> ○地域主体の「人にやさしいまち」学習会・ワークショップを実施 ○各地域福祉センターでUDの考え方を取り入れた改修を実施 ○「わがまち点検」や障害者団体との「安心歩道パトロール」を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「人にやさしいまち」学習会の実施地域を広げ、実践活動を支援していく ◆まちの中の施設点検を継続実施し、多くの区民が参加して改善に取り組む場を設ける
---	---

共に地域で元気に暮らせるまち

<ul style="list-style-type: none"> ○「地域共生のまちづくり」に向けた関係機関のネットワークの充実 ○区民・子ども・高齢者・障害者の相互交流を進める活動の推進 ○健康づくりリーダーの養成と地域福祉センター等での自主健康づくり活動の支援 ○誰もが気軽に楽しめる「すますまADL体操」の制作と普及 	<ul style="list-style-type: none"> ◆誰もが住み慣れた地域で支えあい元気に暮らすことができるまちづくりを継続して推進する ◆健康づくりリーダー活動の更なる充実と区民の健康づくり意識の向上を図る
---	---

子どもが健やかに育つまち

<ul style="list-style-type: none"> ○男性の育児参加促進の取り組み ○地域で子育て活動を支援する「すまっこサポーター」の養成と活動支援 ○「子育て地域連絡会」の立上げと活動支援 ○母親、乳幼児、児童の交流の場「命の感動体験」や、「インフアットマッサージ」による母子交流の展開 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「子育て地域連絡会」の活動支援による身近な地域での子育て家庭を支える環境づくりを進める ◆「すまっこサポーター」「子育て地域連絡会」の活動が地域でさらに浸透するよう情報発信を進める
--	--

花と緑に囲まれた美しいまち

<ul style="list-style-type: none"> ○妙法寺川における親水空間整備に向けた取り組み ○須磨海岸クリーン作戦や区民一斉クリーン作戦 ○区内の自然愛護団体のネットワーク「須磨FRSネット」の活動支援 ○須磨区の木「松」の選定と発信 ○迷惑花火パトロールの継続実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◆森、川、海の身近な自然環境を守り、育てる活動をさらに展開するため、活動団体相互の連携強化を図る ◆各種クリーン作戦、迷惑花火パトロール等の地道な活動を継続実施する。
---	--

地域の魅力を育み活かすまち

<ul style="list-style-type: none"> ○須磨観光協会の「須磨歴史紀行スタンプラリー」の開催や「須磨楽景（切手）」選定による魅力発信 ○道案内サイン「須磨楽歩」の設置や観光ガイド活動の充実による「おもてなし」の向上 ○「さくらまつり」「智慧の盆」等の地域主体の魅力を活かした事業 ○「須磨楽学」発行や「須磨学」講座の実施による情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ◆来訪者がまちを快適に散策できるよう案内サインの整備や散策ルートの設定等の情報の充実を図る ◆須磨を愛する地域のNPO法人等による特色ある活動を支援する ◆須磨観光協会のさらなる取り組み強化を図る
--	--

2025年の須磨区の将来像と方向性

1. 須磨区の将来像

2025年の須磨区の将来像を「地域の力と情熱があふれる住みよいまち—須磨—」とします。

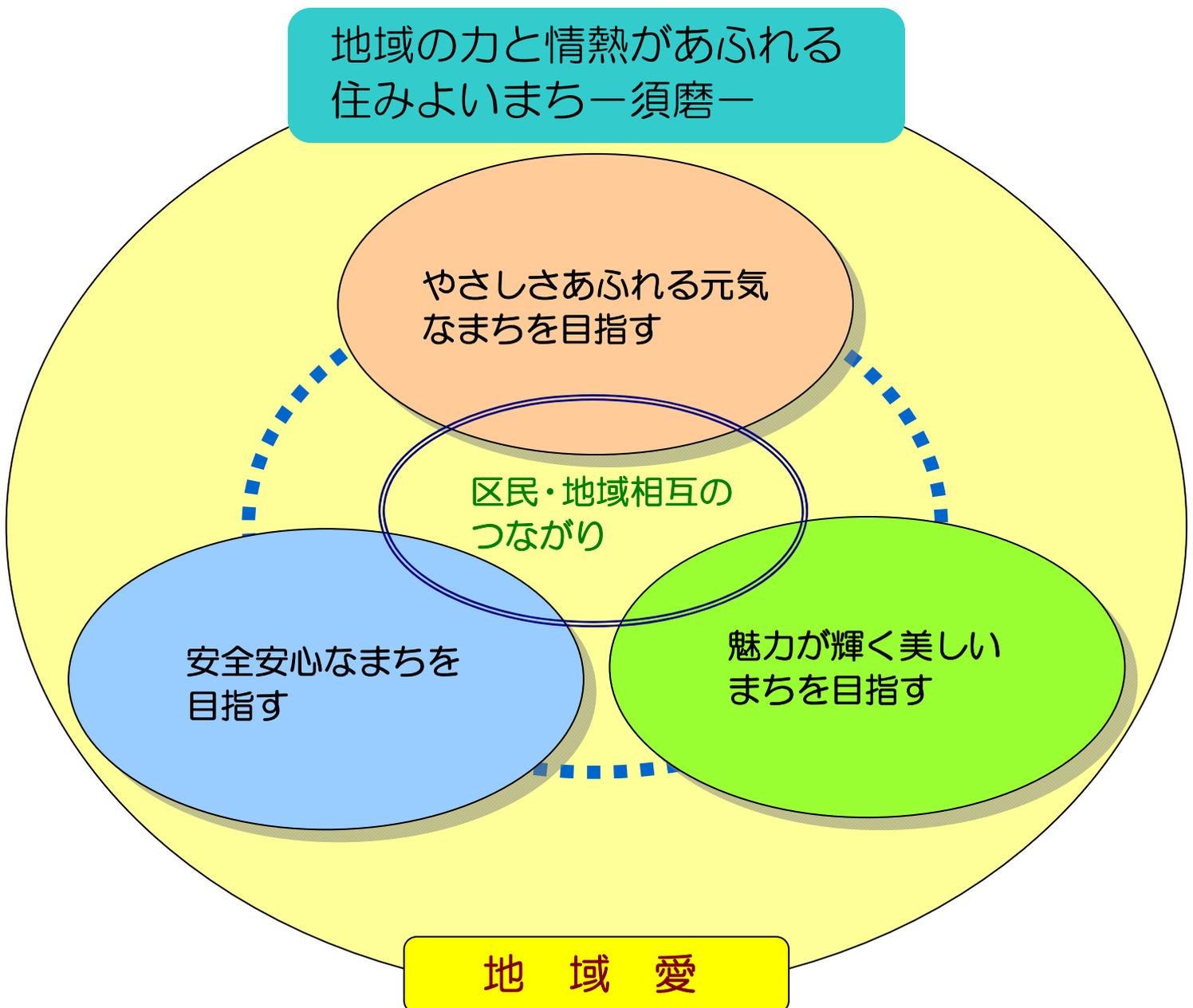
地域の取り組みの主体である地域住民相互のつながりで、地域愛を大切にしながら、さらに須磨の魅力を活かし、住みよさを追求する取り組みを進めます。

2. 実現に向けた方向性

- ◆区民生活やまちの基盤である「安全安心なまちを目指す」
- ◆区民一人ひとりが笑顔で過ごせる「やさしさあふれる元気なまちを目指す」
- ◆区の特性に根ざした誇りとうるおいある「魅力が輝く美しいまちを目指す」

3. 取り組みを進めるにあたって

- ◆須磨区の魅力を再発見し、さらに高める取り組みを進める
- ◆区民相互、地域間の横のつながりを大切にするとともに、情報共有を図る
- ◆これまでに培ってきた取り組みなどを見直し、工夫する



2015年までに取り組む重点テーマ

2025年の須磨区の将来像を実現するため、選択と集中の考え方のもと、2015年までの当初の5か年の取り組みを重点テーマとして設定します。テーマ設定にあたっては、区中期計画で取り組んできた重点テーマを基本としながら、より効果的な取り組みが展開できるよう見直しを行い、下記の5つを重点テーマとして取り組みを進めます。

共に地域で元気に暮らせるまち ～お互いを支えあう～



←子どもヘルパー
隊の取り組み



健康づくりの
取り組み →

子どもが健やかに育つまち ～子と親を支え育む～



命の感動体験学習
の取り組み →



←両親教室OB会
の取り組み

安全安心のまち～まちを守る～



津波避難訓練



防犯リーダーによる子ども
の見守り活動

花と緑に囲まれた美しいまち ～まちを美しくする～



←須磨海岸クリーン
ン作戦



里山保全の取
組み →

地域の魅力を育み活かすまち ～まちを育み活かす～



観光ガイドボラン
ティア活動 →



←須磨妙法寺川さ
くらまつり

(参考) 次期計画検討経過

平成20年度

1月～2月 区民まちづくりアンケート
3月 まちづくり会議幹事会・総会

平成21年度

6月～11月 区民まちづくり会議幹事会
7月16日 区民まちづくりシンポジウム
9月 区民まちづくりワークショップ（計4回開催）
11月19日 区民まちづくり会議総会

(予定)

12月 区民まちづくり会議部会

平成22年

1月～3月 区民まちづくり会議部会・幹事会・総会

垂水区計画 総論案

(中間報告資料)

① 現状(統計)	… 4
◆人口は約22万人で、全市の約14%(全市3番目)となっている。震災時の平成7年をピークに減少傾向となっているが、世帯数は増加傾向で94,563世帯(全市1番目)となっている。 ◆15歳未満人口・比率ともに全市で4番目に多いが、65歳以上の人口は最も多い。	
② 中期計画の検証(平成17年6月策定)	… 6
◆平成17年度に策定した「中期計画」では、『いつまでも住み続けたいまち・垂水』を目指し、2010年に向けて4つの重点テーマを掲げまちづくりに取り組んでいる。	
③ 人口推移(推計)	… 8
◆2025年の人口推計は、2010年に比べて総人口約10%減少し、14歳以下の人口も約30%減少していく反面、75歳以上の人口は約60%増加すると推計されており、少子高齢化がさらに進展していく。	
④ 区民アンケート(平成21年2月実施) 統計	… 10
◆中期的(2015年まで)に取り組むべきもの 災害・犯罪などに対して安心して暮らせるまち、高齢者や障害者などが元気に暮らせるまち、ゴミ出しや駐輪などの生活マナーが守られているまち、子どもたちがすこやかに育つまち ◆長期的(2025年まで)に取り組むべきもの 生活道路や公園などが整備されたまち、芸術・文化・スポーツが楽しめるまち、漁業・商業など地元産業がさかんなまち、身近に花や緑があふれたまち など ◆垂水の魅力とを感じるもの 明石海峡大橋など海をのぞむ美しい景観、マリンピア神戸、アジュール舞子などの海辺、いかなごなどの地域の特産物など、海に関連する項目が垂水の魅力と感じられている。	
⑤ 区民アンケート(平成21年2月実施) 自由意見	… 14
◆安全・安心、住環境、高齢者、子ども、花・緑、ゴミ・環境、コミュニティ、情報発信について	

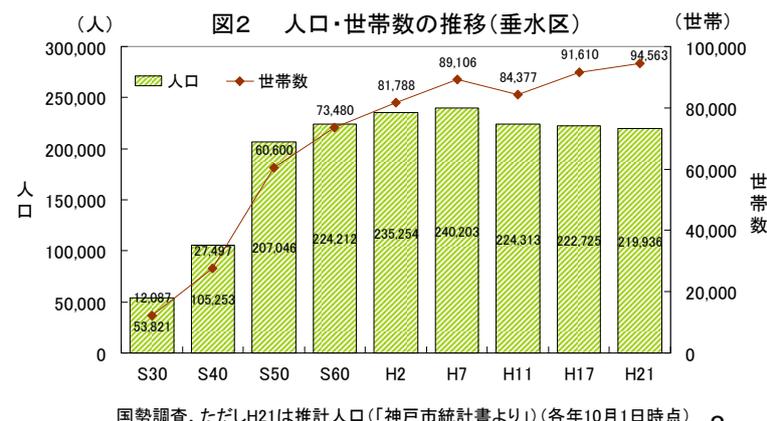
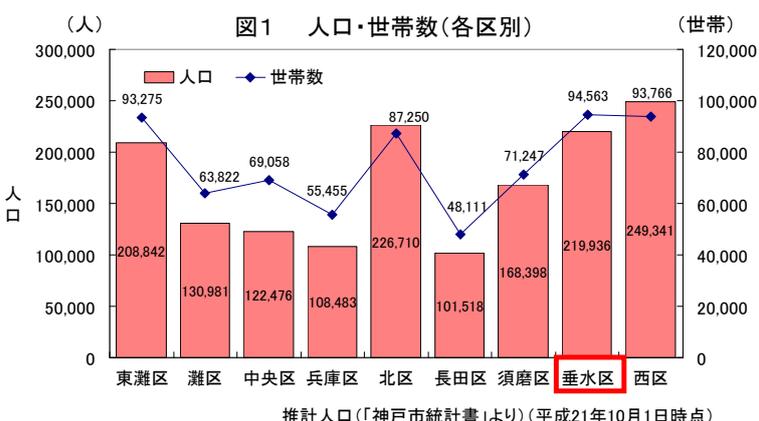
⑥ 区民意見～地域活動を通じたこれからのわがまち～	… 16
これからの神戸・垂水のまちづくりを考えるシンポジウム(平成21年7月24日開催) ◆生活文化圏ごとの地位の魅力、特徴的な取り組み、これからのわがまちについて	
⑦ 区民意見 参加者からの意見	… 19
これからの神戸・垂水のまちづくりを考えるシンポジウム(平成21年7月24日開催) ◆安全・安心、高齢者、マナー、交通渋滞、地域の魅力、住民同士のかかわり、住民参加について	
⑧ 計画づくりに関するキーワード	… 20
区民まちづくり会議 区計画検討部会 ◆第1回(8月26日)、第2回(10月14日)検討経緯	
⑨ “2025年の姿”と“2015年までの重点活動テーマ”の検討	… 22
◆2025年の姿 今後、人口が減っていき、少子高齢化が進むと「まちの活力」が失われていくことが懸念される。子どもやその親などの若い世代を増やすまちづくりが欠かせない。また、おとしよりが健康でいきいき暮らすことのできるまちづくりがあわせて求められる。 ◆2015年までの重点活動テーマ 災害・犯罪に対して“安全・安心”なまち、健康づくり・文化が盛んな“元気・楽しい”まち、生活マナー・まちの美化を守る“快適・美しい”まち、を活動テーマとして取り組む。	

① 現状(統計)

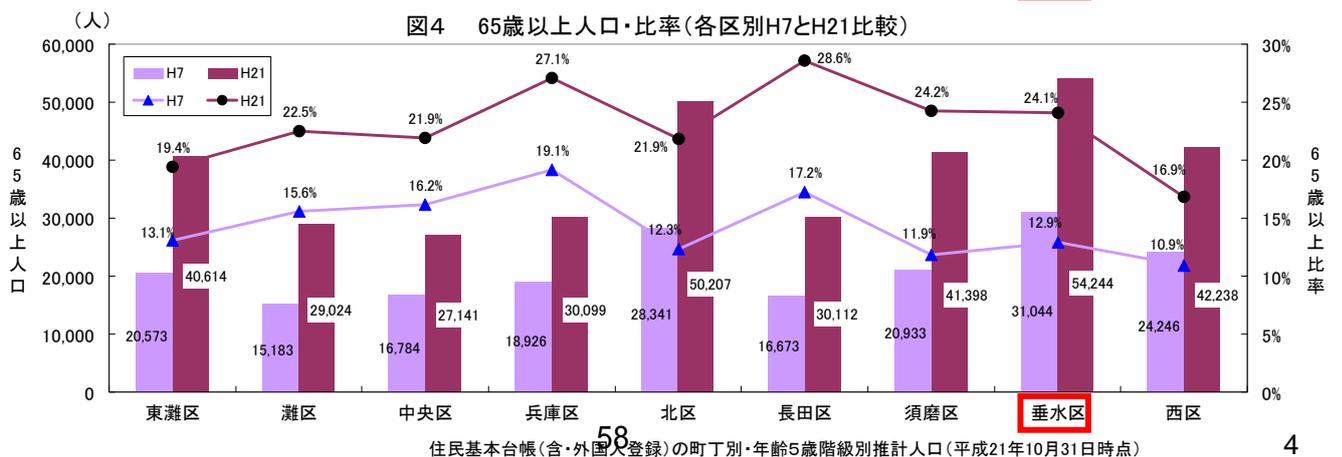
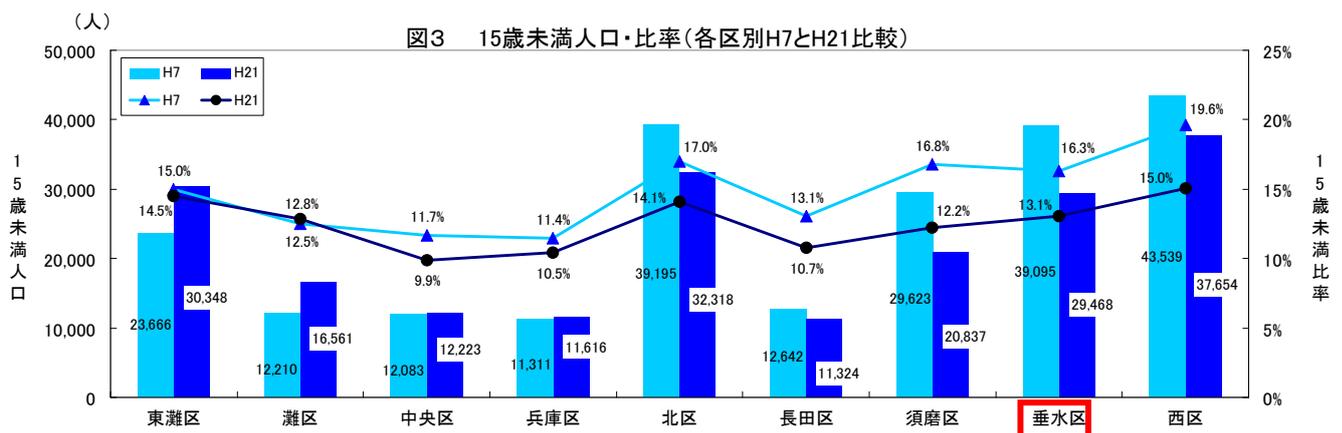
◆人口は約22万人で、全市の約14%(全市3番目)となっている(図1)。

昭和30年代以降急激に増加してきたが、昭和50年以降人口の伸びは鈍化しており、震災時の平成7年をピークに減少傾向となっているが、世帯数は増加傾向で94,563世帯(全市1番目)となっている(図2)。

面積	26.89km ²	(H21.10.1)
人口	219,936人	(H21.10.1)
世帯数	94,563世帯	(H21.10.1)
15歳未満人口	29,468人	(H21.10.31)
65歳以上人口	54,244人	(H21.10.31)
昼夜間人口比率	74.0%	(H17.10.1)
刑法犯罪認知件数	3,020件	(H20年中)



◆15歳未満人口・比率ともに全市で4番目に多い(図3)が、65歳以上の人口は最も多い(図4)。





② 中期計画の検証(平成17年6月策定)

◆平成17年度に策定した「中期計画」では、『いつまでも住み続けたいまち・垂水』を目指し、4つの重点テーマを掲げまちづくりに取り組んでおり、進捗状況は以下のとおり。

安心して暮らせるまち

平成20年度までの取り組み実績

- 災害に強いまちづくり
 - ・防災福祉コミュニティなどを中心とした防災訓練
 - ・市民防災リーダー育成(1,034人)、市民救命士養成(28,608人)
 - ・舞多聞への消防本署移転【H19】
- 住みやすいまちの環境づくり
 - ・6地区でまちづくり勉強会等開催【H12～】
- 交通安全運動の推進
 - ・違法駐車追放推進地区(8地区)でのパトロール
 - ・「たるみ交通安全マップ」の各小学校及びふれまち協への配布
- 犯罪のないまちづくり
 - ・暗がりパトロール、街灯の増設・照度アップ(3,430基)
 - ・門灯点灯運動
 - ・青少年健全育成事業(CAP等)

20年度評価:
概ね
順調

平成21年度以降の取り組み方針

- 地域主体の防災訓練等への活動支援、防災情報の積極的提供
- 「ふれあいのまちづくり協議会」を中心とした地域内諸団体とのさらなる連携

すべての区民が健康なまち

平成20年度までの取り組み実績

- 一人ひとりの健康づくり
 - ・垂水いきいき健康ウォーク
 - ・「すてきなママでいたいから」による啓発・健康教育【H17～20】
- 高齢者が健康に暮らせるまちづくり
 - ・垂水あたまいきいき教室、介護予防地域リーダー養成(266人)
- 子どもが健やかに育つまちづくり
 - ・子育てサークル拡充(31ヶ所)、子育てアドバイザー養成(236人)
 - ・父親の会の支援
 - ・命の感動体験
- ユニバーサルデザインの推進
 - ・ユニバーサル歩道整備事業(垂水駅周辺他)
- 情報交流の推進
 - ・ふれまちネットワーク会議
 - ・ボランティアまつり、ボランティアThe談会による団体間交流促進

20年度評価:
順調

平成21年度以降の取り組み方針

- 子育てについて地域で子どもを守り育てる観点から親の孤立化を防ぐ施策の充実、親育ち講座の開催、父親の子育てへの積極的参加の促進
- 高齢者をはじめ、すべての区民を対象に健康づくりの機会の提供、啓発

5

快適で美しいまち

平成20年度までの取り組み実績

- 花いっぱい・緑いっぱいのまちづくり
 - ・花の名所づくり【H12～】(10ヶ所)、花の街道づくり【H12～】(5ヶ所)
 - ・たるみ花いっぱいフェスタ
- 水辺の活用
 - ・アジュール舞子での親水イベント(こうべパールキャンドル等)
 - ・垂水なぎさ街道づくり【H14～】(案内板設置完了【H20】)
- 生活マナーの向上
 - ・優良クリーンステーション顕彰(44ヶ所)
 - ・イエローカード作戦【H17～】、動物愛護フェスティバル
 - ・違法駐輪対策

20年度評価:
順調

平成21年度以降の取り組み方針

- ゴミ出しマナーの徹底
- ゴミの減量目標の設定と達成状況の公表を盛り込んだ「垂水エコライフ作戦」の展開

訪れたいまち

平成20年度までの取り組み実績

- 海辺の魅力アップ推進
 - ・明石海峡大橋海上ウォーク、垂水名所めぐりスタンプラリー
 - ・垂水観光ボランティアによる観光ガイド【H17～】
- 文化の振興
 - ・垂水区民総合文化祭(ステージイベント:ゼラニウムフェスティバル、公募作品展、たるみ平成万葉集)
- 地元産業の振興
 - ・いかなごイベント情報発信
 - ・兵庫ふるさと市
- 道路・交通網の整備
 - ・漁港道路【H16完成】、商大線【H18完成】
- 情報発信の強化
 - ・垂水観光推進協議会の設立【H17～】

20年度評価:
概ね
順調

平成21年度以降の取り組み方針

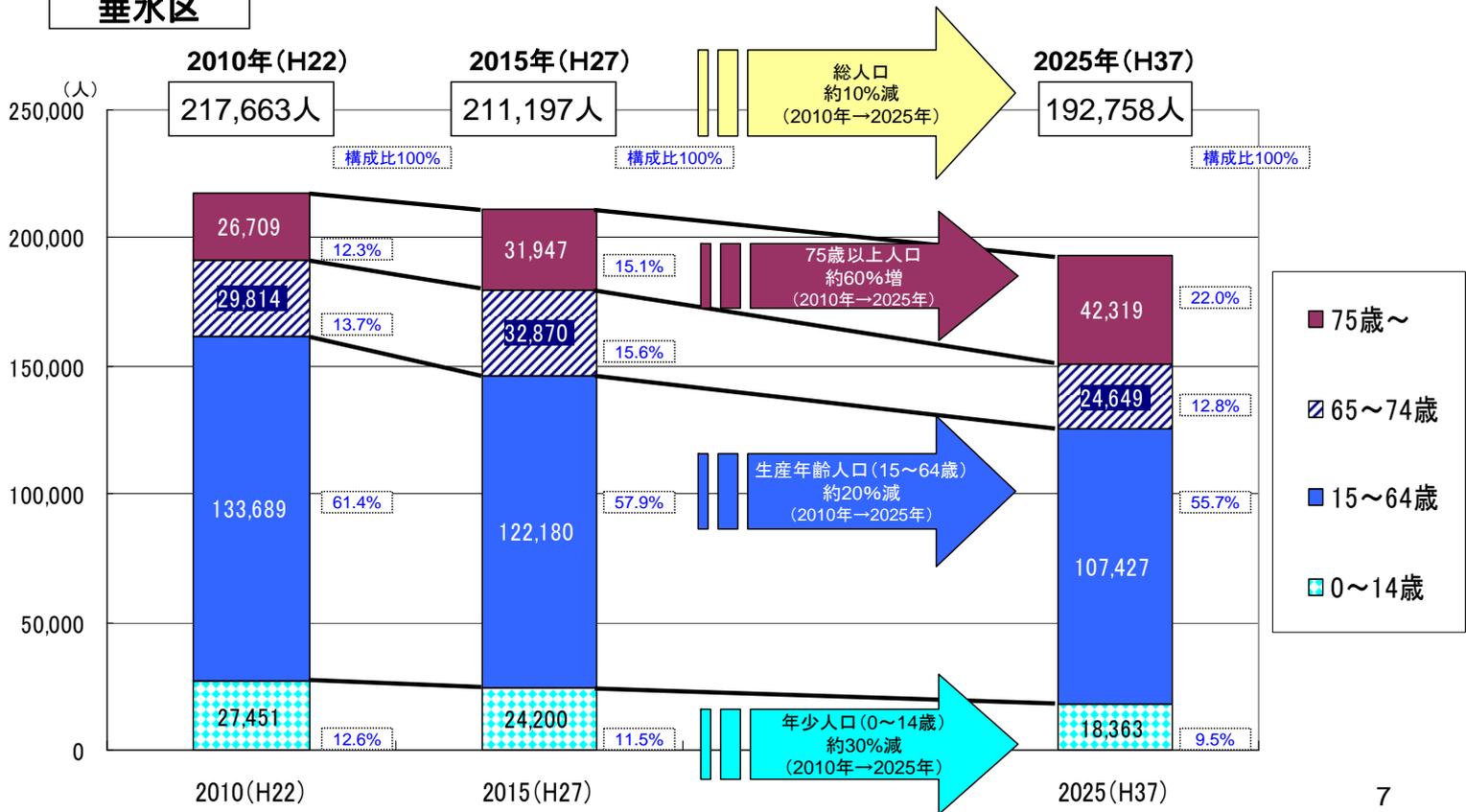
- 明石海峡大橋、アジュール舞子を活用したイベントの実施
- 海辺の散策ルートである垂水なぎさ街道を活用した垂水ならではの魅力の発信

59

6

③人口推移(推計)

垂水区



注: 社人研(国立社会保障・人口問題研究所)による推計値(中位推計)

◆2025年の人口推計は、2010年に比べて総人口約10%減少し、14歳以下の人口も約30%減少していく反面、75歳以上の人口は約60%増加すると推計されており、**少子高齢化**がさらに進展していく。

④区民アンケート(平成21年2月実施)統計

◆アンケートの実施概要

実施期間

- 小学生:平成21年2月5日～平成21年2月27日
- 小学生以外:平成21年2月12日～平成21年3月6日

区分と回収状況

区分	一般		転入者	一般	17歳	小学生
	無作為抽出			ふれあいのまちづくり協議会	無作為抽出	
配布数	2,000	26(外国人)	500	1,250	1,000	968
回収数	911			711	212	968
回収率	36.1%			56.9%	21.2%	100.0%
合計	1,834 (回収率 38.4%)					968 (回収率100%)

9

◆アンケートの主な結果

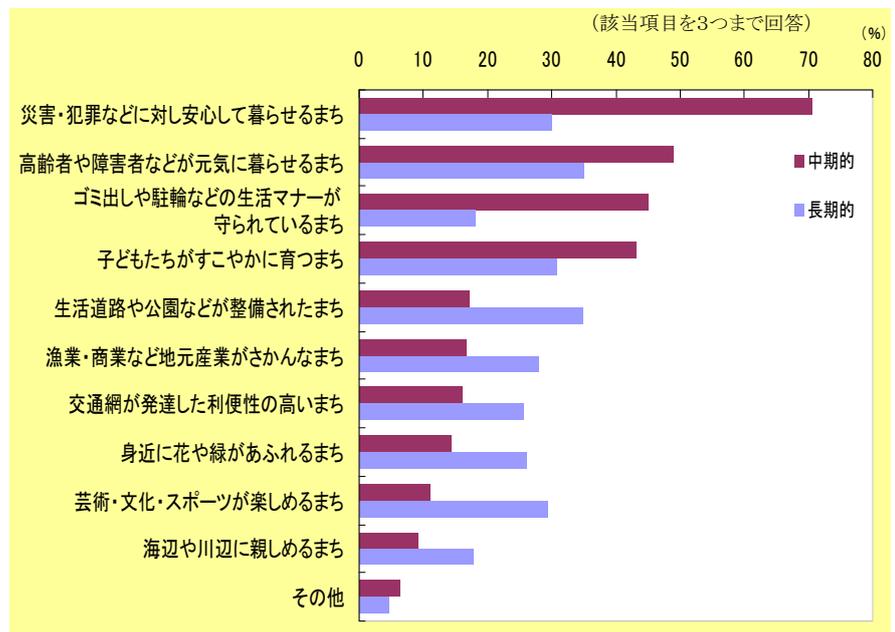
重点的に進めていくべきまちづくりについて

「中期的(2015年まで)に取り組むべきもの」

- ・災害・犯罪などに対して安心して暮らせるまち
- ・高齢者や障害者などが元気に暮らせるまち
- ・ゴミ出しや駐輪などの生活マナーが守られているまち
- ・子どもたちがすこやかに育つまち

「長期的(2025年まで)に取り組むべきもの」

- ・生活道路や公園などが整備されたまち
 - ・芸術・文化・スポーツが楽しめるまち
 - ・漁業・商業など地元産業がさかんなまち
 - ・身近に花や緑があふれたまち など
- で中期的に取り組むべきものと違いがある



垂水の魅力と感ずるもの

【一般】

- ・明石海峡大橋など海をのぞむ美しい景観
- ・マリニピア神戸、アジュール舞子などの海辺
- ・いかなごなどの地域の特産物

など、

海に関連する項目が垂水の魅力と感ずられて

いる。

垂水の魅力と感ずるもの(一般)

(該当項目を3つまで回答)



【小学生】

- ・明石海峡大橋やその関連施設
- ・マリニピア神戸、アジュール舞子などの海辺
- ・五色塚古墳や大歳山遺跡などの史跡は大人より高い回答

垂水のまちで自慢したいもの(小学生)

(該当項目を2つ回答)



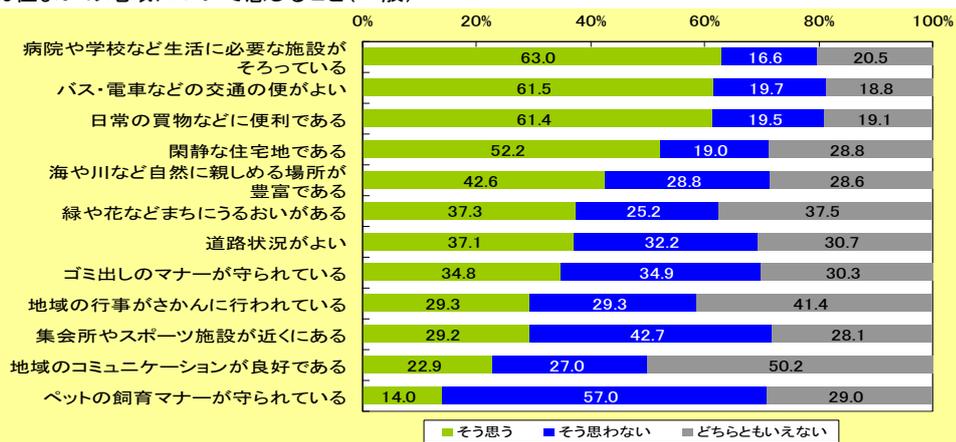
11

お住まいの地域について感ずること

【一般】

- ・病院や学校など生活に必要な施設がそろっている
- ・バス・電車などの交通の便がよい、
- ・日常の買物などに便利である
- ・閑静な住宅地である

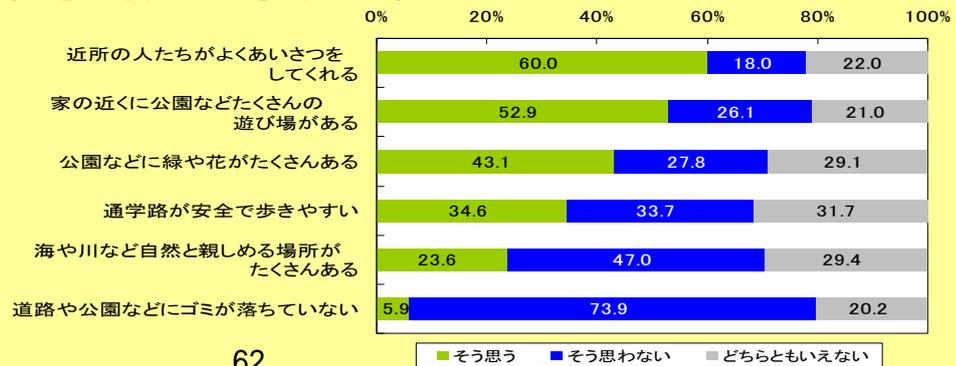
お住まいの地域について感ずること(一般)



【小学生】

- ・近所の人たちがよくあいさつをしてくれる
- ・家の近くに公園などたくさんの遊び場がある

家の近くの地域について感ずること(小学生)



62

12

⑤区民アンケート(平成21年2月実施)自由意見 抜粋

①安全・安心

・今回、無作為とはいえ、このようなアンケートに協力することができてうれしかったです。改めてきいていただけると、こちらも、真剣にまちづくりに参加できるし、区の一員なんだと自覚することができます。住民参加型の行政ってこういうことなんだなあ…と。(アンケートだけではないですが)自分自身や大切な家族が、**より安全に安心してくらしつづけたい街をみんなで作っていきたい**です。フルタイムで働いてはいますが協力できることはしたいと思っておりますのでどうぞよろしくおねがいします。(30代)

・私の住む所では**毎朝、地域の人が交通安全活動をしており、とても安心**できます。これからも続けてほしいです。**ただの交通安全ではなく、小さなところから人と人がふれあえるから**です。ゴミの回収制度が厳しくなっていますが、まだ守らない人がいます。その対策がなにかあればと思います。これからも、他地域の人でも「垂水っていいな」って思われるようなところになってほしいです！(17歳)

②住環境

・1人ぐらしの多い街になってきつつある。この対策を真剣に考える必要がある。**空き屋対策を考える事も大事**と思う。(60代)

・子供を連れて散歩などをしていると、**お年寄りの方などが気軽に話しかけて下さるので、すごく温かい町**だなあと感じました。垂水へ来てまだ2年ですが、**色々な行事があるのですごく楽しみです**。子供が大きくなったら祭りなど参加したいです。(20代)

・駅前の商店街など、**親しみがあり、住み良い街**だと思っています。次期計画の際にも**住民の生活の向上を目指したあたたかい街、住宅環境、生活の場を考慮して頂きたい**と思っています。子供たちが、**思いっきり生きていける区になれば良い**ですね！(20代)

・私は、生まれてからずっと舞子台で暮らしています。三ノ宮などの繁華街から、さほど離れてはいないのに、**舞子の浜や多くの緑地など、豊かな自然に囲まれているところは、本当に垂水区の素晴らしい点**です。私の両親はこの環境を気に入って、ここで子育てをしようと思いましたが、大人になった私自身も、いつか子供をもったら、ここで育てたいと思うほどです。ですから、**この豊かな自然を守り続けていき、同時に、子供やお年寄りが生き生きと暮らせるような町づくり**を今後も期待したいと思います。区民で構成するクラブ活動やグルメコンテストなどのイベントも多くなれば、より楽しめるかもしれません。**幾世代に渡って愛され、住み続けられる町になれば本当に素敵**なことだと思います。(20代)

③高齢者

・私が住んでいる所も含め、高齢者が多く、%テージも高いようです。**元気なおとしよりが快適に過ごせるように老人向けの、集いの充実、家にひきこもる人が少しでも外へ、出られるようにはたらきかけ**を考え、机上プランだけにしない工夫をよろしくお願い致します。(60代)

13

④子ども

・この春から名古屋へ行く事になりました。結婚前から住み続けている垂水ですが、**子供が産まれてから垂水の子供の多さに気付きました。それだけ子育てしやすい街**だと思っています。実際、健康公園、平磯公園、舞子公園等子供が伸び伸び遊べる施設が整っていて、よく利用していました。**住民の方も気さくな方が多く、子供を連れていてもよく助けてもらいました**。これからも子育てしやすい街としてがんばって下さい。(30代)

⑤花・緑

・**もっともっと花や緑にあふれた街**になったらと思います。もし**そんな活動などがあればぜひ参加してみたい**です。そういう活動があればみんなが分かるようにチラシとか、はり紙とかしてもっとみんなが参加できるようにしたいと思います。(17歳)

⑥ゴミ・環境

・私は3才から小3までドイツに住んでいました。7年前に日本に帰ったときは、ゴミの分別ができておらずびっくりしましたが今は神戸市もすっかり分別できるようになりゴミのマナーもとても良いので、嬉しいです。私は今生徒会でecoをテーマに活動しています。**まず自分の身近なところから環境について考えていきたい**と思っています。6月の学園祭では、リサイクルをテーマにした制作や有志企画を考えています。小さなとくみですが頑張ります。私は垂水が好きで、**ずっと垂水に住み続けたい**と思っているので、**この環境を守りたい**です。(17歳)

・ゴミのリサイクル、温暖化を考える取組み等があれば良いと思います。また**キレイな町づくりのため、土日にゴミ拾いなどの活動があれば参加したい**と考えています。舞子公園(海側)のように、いつでもキレイな公園がたくさんあるといいなと思います。私も家庭をもったら、今以上に利用させてもらおうと思います。(20代)

⑦コミュニティ

・今年度初めて自治会の班長をさせていただいています。そこで、**住民のみなさんのつながりの深さや、さかんな自治会活動を知り、街でありながら古き良き人と人とのつながりが今も大切にされている地域**なんだな、と知ることができました。単身でありながら**地域の活動に参加させていただき、住民の一人であることを実感**でき、とてもうれしかったです。そのようなつながり、地域の活動は今後も、住民は変わっていったとしても続いてほしいと思います。ただ、場所によって新しい住民、以前から住み続けておられる方など差が大きく、抱える課題も大きいのだろうな…と感じています。(30代)

⑧情報発信

・都会ではなく、**すごく田舎…というわけではないところが気に入っています**。もっと住み良いまちになればいいなと思います。あと、いろんな情報が欲しいと思っているのですが、広報にはほんの少ししか載っていないし、ロコミにも限界があるので、**垂水でのイベントやいろんな情報を知る手段があれば良い**なと思います。(40代)

14

⑥区民意見～地域活動を通じたこれからのわがまち～

これからの神戸・垂水のまちづくりを考えるシンポジウム(平成21年7月24日開催)



*塩屋・下畑生活文化圏

◆地域の魅力

- 人とのふれあい・コミュニケーションを大切にするまち
- 海・山・川・塩屋大池と自然の宝庫
- 潮の香りがするまち
- 昔ながらの歴史のまち

◆特徴的な取り組み

- 塩屋浜海上イベントの開催
- 地域資源(旧グッゲンハイム邸)を生かした活動
- 伝承文化の継承 など



塩屋・下畑のまちなみ

◆これからのわがまち

- 地域の活性化(まちが1つになってみんなが地域を盛り上げる)
- 塩屋・下畑をつなぐ仕掛けづくり

*東垂水生活文化圏

◆地域の魅力

- 自然豊かなまち(「海・緑・太陽」)
- 公園や花街道がきれいに整備されている・安全なまち



福田川探検隊



省エネ講座

◆特徴的な取り組み

- 「環境のために誰もが身近に実践できること」の啓発(マイ箸・マイバッグ・マイコンポストなど)
- 福田川を生かし環境を守る活動(福田川探検隊による自然観察、清掃活動)
- 公民館や地域福祉センターにおける環境講座の開催
- 自然の魅力やわがまちの再発見・再認識を目的とした「まち歩き」の実施
- 中学生を対象とした「省エネ講座」の開催など

◆これからのわがまち

- 活気があふれるまち
- 心が通うまち
- 顔のわかるまち
- 地域の交流が盛んなまち
- ホテルが飛ぶまち

15

*西垂水生活文化圏

◆地域の魅力

- 明石海峡大橋のすばらしい景観や五色塚古墳をはじめとする歴史ある文化財があること
- 商店街やマリニピア神戸などの大勢の人たちが賑わう商業施設がたくさんあること

◆特徴的な取り組み

- 地域資源(五色塚古墳)などを活用した花の名所づくりやクリーン作戦などの実施
- 防犯パトロールクリーン作戦の実施
- ごみ問題の解決や資源集団回収などエコの徹底 など



五色塚古墳 おやこ自然園



いかなご祭り

◆これからのわがまち

- 魅力あるわがまちのスポットや名所を再発見
- より多くの人にまちの魅力について情報発信

*舞子生活文化圏

◆地域の魅力

- 大歳山遺跡、舞子古墳群、舞子砲台跡などの歴史的に貴重な文化財
- 舞子音頭や銭太鼓などの郷土芸能

◆特徴的な取り組み

- おおとし山まつりへ参加、昔あそびコーナー開設
- 山田川、舞子海岸の清掃活動の実施
- 市民花壇の手入れや花の名所づくり
- こうべパールキャンドルでの行灯・キャンドルづくり など



おおとし山まつり



パールキャンドル

◆これからのわがまち

- 新たな魅力発見への取り組み
- 貴重な文化財などを活用した伝統と歴史のあるまちづくり

64

16

*多間生活文化圏

◆地域の魅力

- 自然に富み、豊かな歴史に恵まれたまち
- 人々の交流が盛んに行われている、いつまでも住んでいたいまち

◆特徴的な取り組み

- 子どもが主役になるまちを目指した取り組み(スタンプラリー、昔あそび、稲刈り体験、交流会、ウォークラリーなど)
- 安全マップの作成
- 花の名所づくり(菜の花まつり)
- 山田川の美化活動(新たな目標) など



稲刈り体験



菜の花まつり

◆これからのわがまち

- 高齢者から子どもまで安全で安心して暮らせるまち
- 魅力ある自然環境や史跡などが線でつながる豊かな憩いのあるまち
- 生活環境などの面において新旧住宅地間のバランスがとれているまち

*名谷生活文化圏

◆地域の魅力

- 周囲を緑の丘陵に囲まれ、自然や歴史的な史跡が豊で、住環境や交通アクセスに恵まれたまち
- 古くからの住民(旧5か村)、近年の開発団地の住民、震災後の震災復興住宅の住民と三様の住民が融合するまち

◆特徴的な取り組み

- かかしウォークと歴史散策の実施
- ラベンダー街道とあじさい公園のお花の世話
- つつじこまつり・名谷ふれまち七夕まつりの開催
- 伝統芸能の継承・異世代交流を図る取り組み など



かかしウォークと歴史散策



名谷ふれまち七夕まつり

◆これからのわがまち

- 地域の豊かな自然と伝統行事や史跡などの地域資源を守り、次世代への継承を図る
- 地域を形成する三様の住民が、より一層融合し、一体となる活動や交流に取り組み、「豊かなコミュニティがはぐくまれる名谷づくり」を目指す
- 地域の元気印である高齢者パワーを集約、活用して、活力ある地域づくりを目指す

⑦ 区民意見 参加者からの意見 抜粋

これからの神戸・垂水のまちづくりを考えるシンポジウム(平成21年7月24日開催)

①安全・安心

- ・ 犯罪や暴力、災害のない街になりますように、高齢者にとって住みやすい街でありますように願っています。

②高齢者

- ・ お年寄りに住みよく、若い者にも魅力ある垂水であり続けることを願うと同時に自治会活動に参加する人が多くなることを願っています。
- ・ 高齢者や障害者などが元気に暮らせる町にしてほしい。

③マナー

- ・ まだまだ地域住民のモラルの低下やマナー違反が目立ちますので努力が必要だと思います。
- ・ 垂水区の将来、参考になりました。もう一つ原点に帰ることはマナー不足がもっと大切だと思います。放置自転車、ポイ捨てタバコ。

④交通渋滞

- ・ まちづくりについて、商大線特に土曜・日曜日の混み具合が大変なので解消してほしい。

⑤地域の魅力

- ・ 長く住んでいながら知らない伝統行事、施設、自然、池、古墳とかを教えていただき散策したい。もっと区民にPRしていただけたらと思いました。

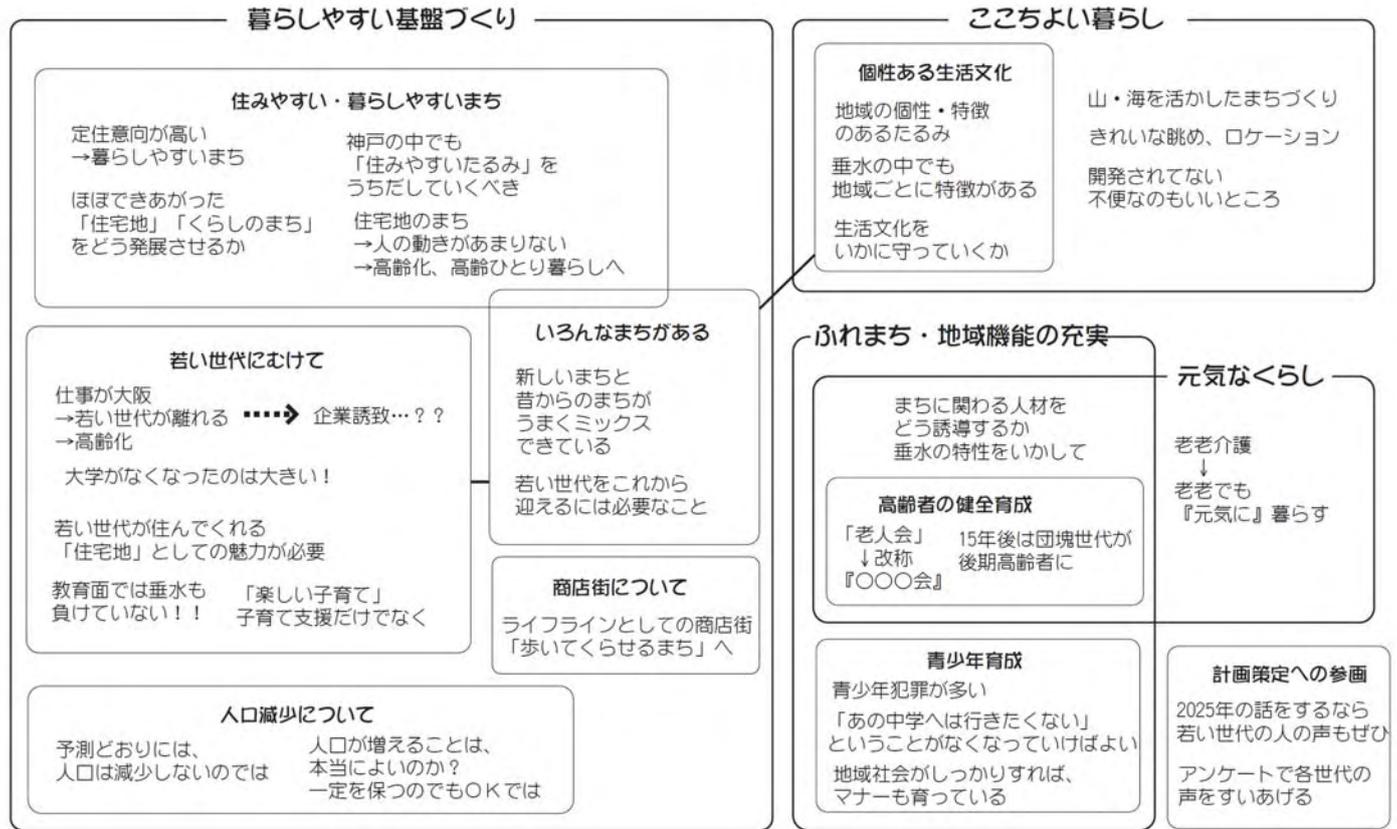
⑥住民同士のかかわり、住民参加

- ・ 少子化高齢化にともない個々の住民と地域のかかわりが一番大切になってきています。各地域の特性をいかしてより一層住民のかかわりが密になるように創意工夫をしていっていただきたいと思います。
- ・ 各地域活動の代表の皆様の発表は、それぞれの地域をより一層活性化をめざし色々工夫し実行されているお話を聞き、私たちががんばろうと思え勇気が出ました。実行委員の苦勞に気持ちよく賛同してくれる協力が少ないとやりがいがありません。
- ・ 安心安全なまち垂水のために、それぞれの分野、地域の住民一人一人自覚を持って行動することの大切さ、地域のコミュニティづくりを大切にいくことの大切さ感じている。
- ・ 今まで何気なく永らく好きな垂水で住んでいましたが、そのためには地区の各自の人たちの努力のおかげだと強く感じられました。ありがたいことです。私も、地域のためにもっと努めたいと思います。
- ・ 将来のことを考えると幼稚園、小中高へ通っている子どものいる親(PTA)にもっと(地域活動への)参加をよびかけを!

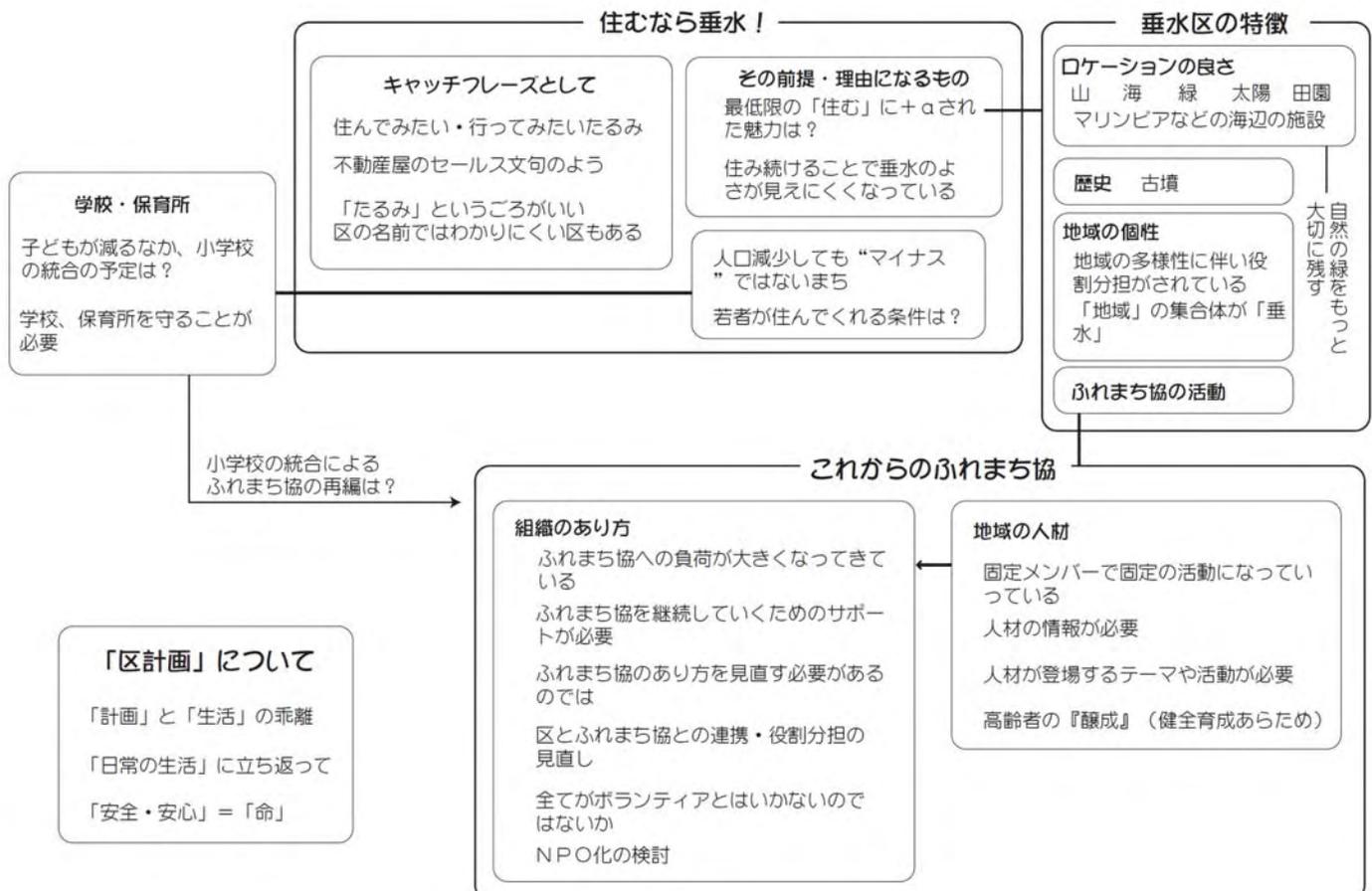


⑧ 計画づくりに関するキーワード

第1回 区民まちづくり会議 区計画検討部会（平成21年8月26日）



第2回 区民まちづくり会議 区計画検討部会（平成21年10月14日）



⑨ “2025年の姿”と“2015年までの重点活動テーマ”の検討

1. 本計画の位置づけ

「区民と区(行政)との協働による取り組み計画」として区民のみなさんに広く発信し、取り組みを呼びかけていきます。

2. 垂水のまちの特徴

垂水区は、明石海峡大橋、アジュール舞子など海辺の美しい景観と落ち着いた住環境に恵まれ、住みよいまちづくりのためにふれあいのまちづくり協議会を中心として活発な地域づくりが進められてきています。

3. 2025年の姿

今後、人口減少、少子高齢化が進むと予想されていますが、区民の皆さんと区(行政)が一緒になって、子育てを応援するなど安心して子育てできる環境を充実させ、若い世代の人たちが子育てしたいと思うまちを目指すとともに、おとしよりが相互に交流し、地域に貢献する、おとしよりがいきいき暮らせるまちを目指していきます。そして、すべての区民が生活文化をたのしめる、活気・活力とぬくもりのあるまちを目指します。

4. 2015年までに取り組む柱

2025年の姿を実現するために、災害・犯罪に対して“安全・安心”なまち、健康づくり・文化が盛んな“元気・楽しい”まち、生活マナー・地球にやさしい環境へ取り組む“快適・美しい”まちを取り組みの柱とし、テーマに応じた重点施策を実施していきます。

また、「人のつながり」を活動の基礎として取り組み、垂水のまちの特徴を最大限に活かし、まちの魅力や活力を高めていきます。そして、“○○○○○○○○○○○○○○”をキャッチフレーズに取り組んでいきます。

《区民と区(行政)との協働による取り組み計画》

概念図

背景

まちの特徴 : 明石海峡大橋、アジュール舞子など海辺の美しい景観と落ち着いた住環境
ふれあいのまちづくり協議会を中心とした活発な地域づくり
今後の社会状況: 人口減、少子高齢化が進む

キャッチフレーズ “○○○○○○○○”

2025年の姿

若い世代が子育てしやすく、おとしよりがいきいき暮らすことができ、すべての区民が生活文化をたのしめる、活気・活力とぬくもりのあるまちを目指します。

まちの魅力・活力

(安全・安心)なまち
災害、犯罪など

(元気・楽しい)まち
健康、文化など

(快適・美しい)まち
マナー、美化など

人のつながり
発信&交流

西区計画 総論案

(中間報告資料)

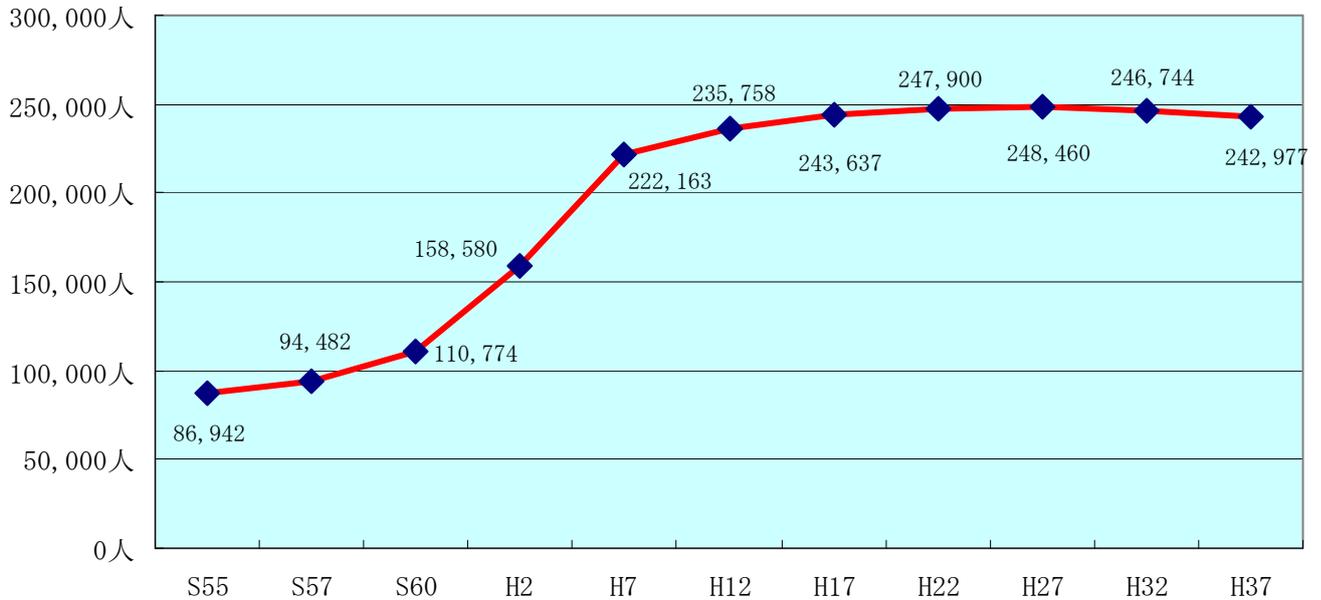
区域および面積

西区は、昭和57年(1982)8月1日に伊川谷町、櫛谷町、押部谷町、玉津町、平野町、神出町、岩岡町の7町をもって垂水区から分区して現在に至っています。

西区は神戸の西端に位置し、その面積は137.96km²と市域全体の4分の1を占め、北区に次いで第2位の広さです。

人口

(国立社会保障・人口問題研究所による人口推移のシミュレーション)

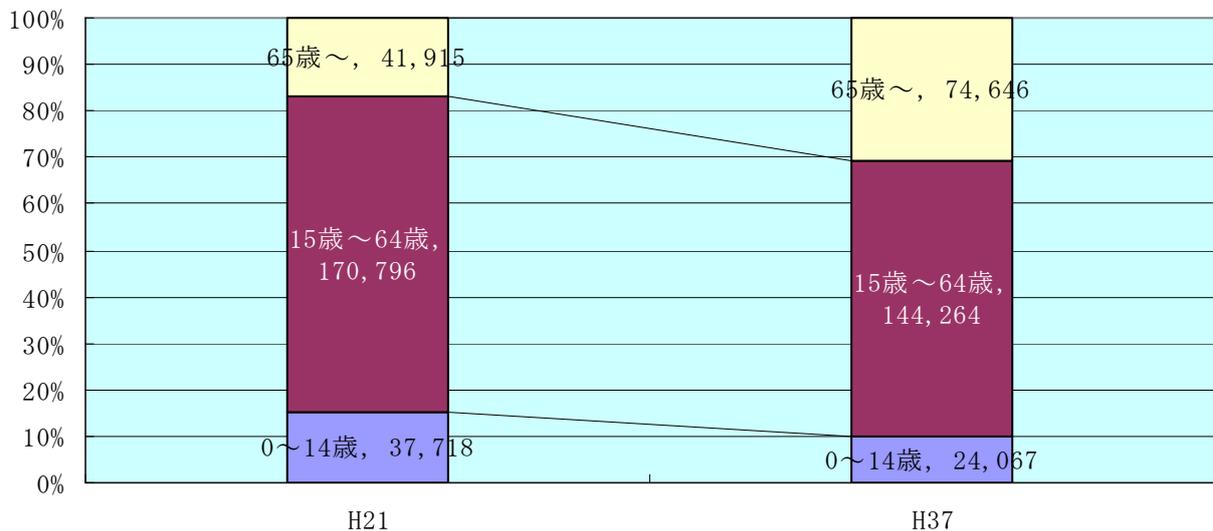


西区の人口は昭和57年8月の分区時9万4千人と市内最小でしたが、西神中央・学園都市・西神南のニュータウン開発、玉津・伊川谷の区画整理事業の進捗が進んだ結果、人口は右肩上がりに増加し、平成21年9月1日現在24万9千人と市内最多となっています。

しかし、全国的な人口減少社会の到来は西区も例外ではなく、平成27年(2015)頃をピークに人口は減少傾向に入る見込みです。

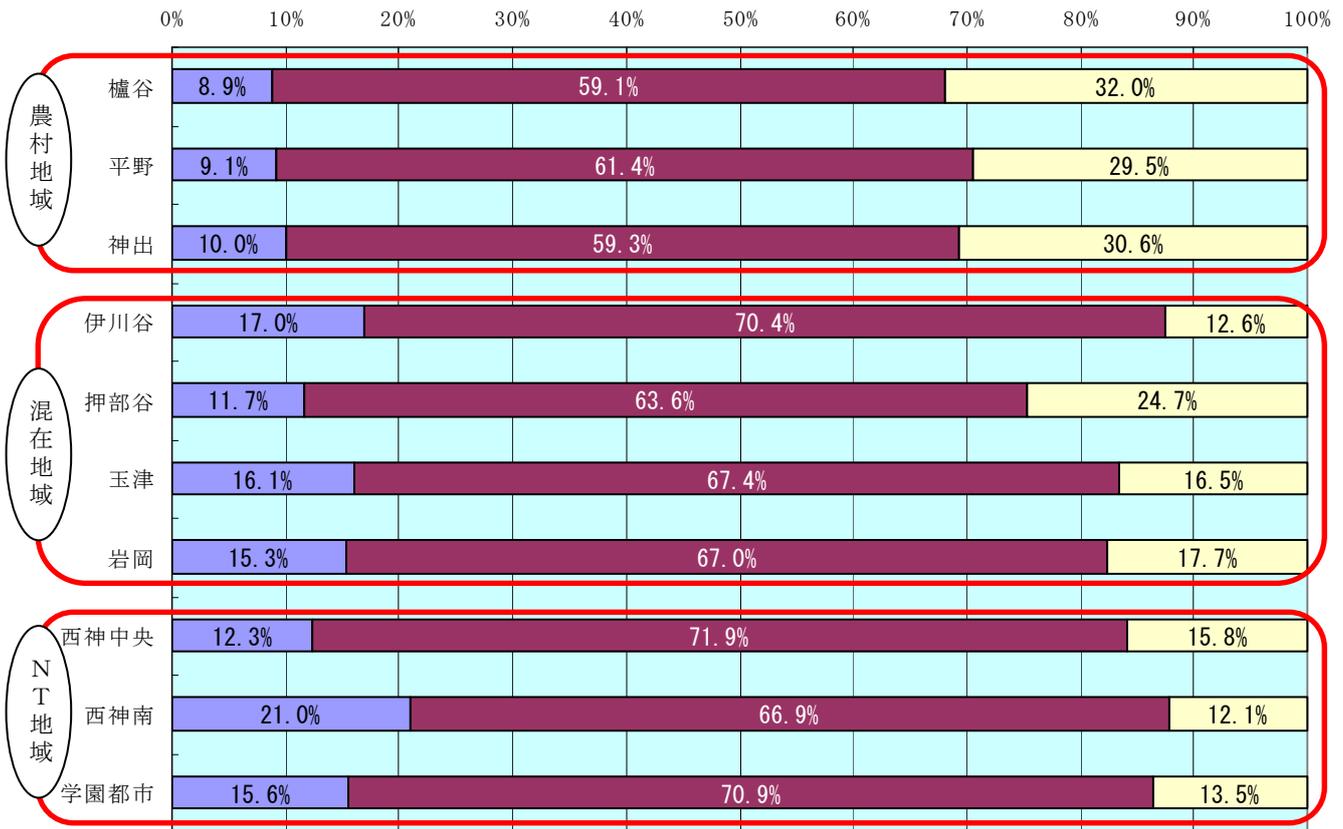
また人口構成を見ますと、15歳未満人口がH21には約3万8千人、割合にして15.1%であったものが、H37には約2万4千人、割合にして9.9%に減少する見込みです。

他方、65歳以上人口は約4万2千人、割合にして16.7%であったものが、H37には80%増の約7万5千人、割合にして30.7%に達する見込みです。



(地域別の状況)

0～14才 15～64歳 65歳～



区内10地域別の平成21年9月時点の世代別人口比を見ると、農村地域では15歳未満の人口の占める割合が10%を下回る一方で、65歳以上人口の占める割合が30%を超えており、少子高齢の兆候が顕著です。

他方、西神南地域や伊川谷地域のように、15歳未満人口が15%を超え、65歳以上人口が10%台前半に留まる地域もあります。

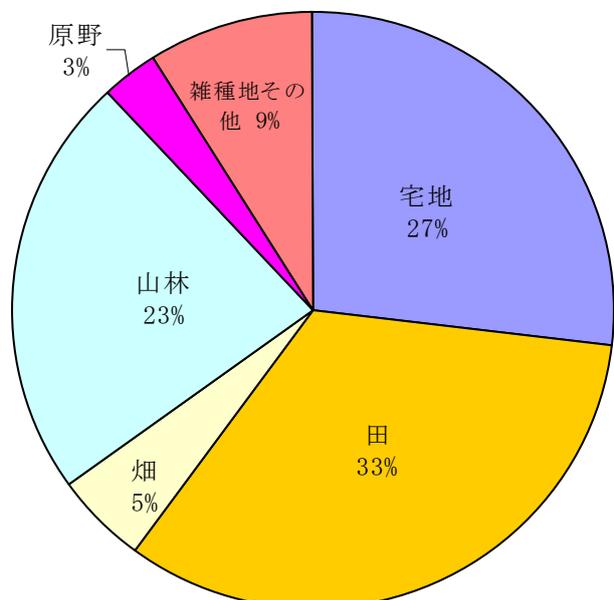
また、ニュータウンとして開発された西神中央地域や押部谷地域の一部などでは、既に街びらきから年数が経過したこともあり、高齢化が進んでいます。

土地利用

ニュータウンの開発などによる宅地化が進んでいるものの、全体の3割弱に留まり、農地である田畑が4割弱、山林・原野が3割弱と、区域の6割以上が緑に覆われています。

田畑は明石川水系の河川沿いと神出・岩岡のため池群の周囲に、山林・原野は区北部に広がっています。

このように、雌岡山・雄岡山や明石川・伊川・櫛谷川の水辺が豊かな自然景観を形成し、区民に安らぎと潤いをもたらしています。



【西区の土地利用の現状】

平成20年度版神戸市統計書より

経済

都市部と近接する利点を生かした農業が盛んで、農家戸数や農地面積は市内でも群を抜いています。

区内には、西神中央・西神南・押部谷・岩岡に商工業の企業が集積する産業団地が整備されるなど工業も盛んであり、製造品出荷額は平成19年の調査で、初めて兵庫区を抜いて市内で1位になりました。工業従事者数も1位、事業所数は2位となっています。

商業はニュータウン地域や国道沿いを中心に広がっており、小売業商店数は8位ですが、小売業従事者数は2位となっています。

西区は郊外のベッドタウンというイメージを持たれがちですが、このように神戸経済を支える屋台骨としての特長も併せ持つまちとすることができます。

	項目	数値	市内順位	調査時点
農業	農家世帯	3,620世帯	1位	H19.8
	農家人口	15,101人	1位	H19.8
	現況農地面積	3,110ヘクタール	1位	H19.8
工業	工業事業所数	508社	2位	H19.12
	工業従事者数	19,518人	1位	H19.12
	製造品出荷額等	8,450億円	1位	H19.12
商業	小売業商店数	1,223店	8位	H19.6
	小売業従事者数	12,493人	2位	H19.6
	小売業年間販売額	2,432億円	2位	H19.6

平成20年度版神戸市統計書より

これからのまちづくりに必要な施策（区民アンケートより）

現在の中期計画の取り組みに対する区民の評価や、西区計画の策定に向けて取り組むべき施策などに関する区民アンケートを平成21年1月に実施しました。

無作為抽出した区民3,000人に郵送で回答を依頼し、期限内に1,122人、約37%の方々から回答を頂きました。

区民アンケートでは、25の選択肢から次期5カ年計画で取り組む必要があると考えられるものを5つまで選んでいただいたところ、右の表のとおりとなりました。

「安全・安心」にかかるものとしては、新型インフルエンザなどの病気への対策、子どもの登下校の見守り、防災防犯情報の発信の強化、地域防災力の向上などが上位に挙がっています。また、超高齢社会を迎える今、災害時要援護者施策が求められています。

また、下位ではありますが、河川災害に対する備えも明石川・伊川・櫛谷

順位	施策
1	今後増加する高齢者が元気に生活するための支援
2	犬の糞放置や駅前の自転車駐輪など社会マナーの向上
3	新型インフルエンザ等の病気への対策の充実
4	子どもが健やかに育つ環境作り
5	登下校時の見守りなど地域防犯力の向上
6	防災・防犯情報などの発信の強化
7	山や川など豊かな自然を大切に守り育てる環境づくり
8	団塊の世代など高齢者の生きがい作り
9	ごみを減らし環境にやさしい暮らしの推進
10	地域の防災力の向上
11	地域の監視の眼を強化し不法投棄を追放する地域の取り組みの強化
12	産地偽装や毒劇物混入など食の安全に関する情報の発信強化
13	花や緑に囲まれた美しいまちなみの維持
14	広報紙やホームページなど西区に関する情報発信の強化
15	災害時要援護者対策の充実
16	障害者が自立した生活が送れるサポート体制の確立
17	地産地消をとおして育む健康作り
18	クリーン作戦など地域主体で取り組む美化活動の充実
19	相談窓口の強化など子育てしやすい環境づくり
20	ウォーキングや体操など身近な取り組みによる健康作り
21	地域福祉活動を担うふれあいのまちづくり活動の充実
22	市民農園や観光農園など農と親しむことのできる環境づくり
23	獅子舞や神輿など伝統芸能の保存活動
24	区内6大学1高専と連携したまちづくりの強化
25	河川災害に対する避難訓練

川を抱える西区としては欠かすことのできない施策であると考えられます。

「健康」にかかるものとしては、生きがい作りなど高齢者が元気に暮らせる施策や、子育てがしやすい環境づくりや相談窓口の設置など子育てを支援する取り組みなどが求められています。

「交流・融合」では、犬の糞・自転車など社会マナー向上の取り組みが多く、豊かな自然環境を守り育てる取り組みや、ごみを減らしたり不法投棄を無くす美しいまちづくりなどが求められています。また地産地消や市民農園など農と親しむ環境づくりも西区の特長として一定の支持を得ています。

また地域的な差異はありますが、大学などと連携したまちづくりや地域の伝統芸能の保存活動を通じて育むふるさとづくりなども西区ならではの取り組みとして今後のまちづくりの中で取り組んでいく必要があるものといえます。

西区計画の策定過程

○ 西区計画アンケート

平成21年1月6日（火）～20日（火）

各年代の人口比・地域別の人口比をもとに無作為抽出した3,000人を対象に実施した。回答者は1,122人（回答率37.4%）

○ 区民まちづくり会議

☆ 部会【西区計画策定のワークショップ】

（安全安心）平成21年7月31日（金）

（健康福祉）平成21年6月15日（月）

（交流融合）平成21年6月19日（金）

部会【西区計画の総論案の検討】

（安全安心）平成21年10月16日（金）

（健康福祉）平成21年10月22日（木）

（交流融合）平成21年10月14日（水）

☆ 幹事会 平成21年11月16日（月）

☆ 総会 平成21年11月16日（月）

○ 西区計画シンポジウム

平成21年8月24日（月）午後2時～午後4時

西区民センター2階 なでしこホール

参加者 約250人

- 【内容】
- ・ともにつくるこれからの神戸（神戸市長）
 - ・西区計画の策定に向けて（西区長）
 - ・区民まちづくり会議からの策定作業報告（部会長）

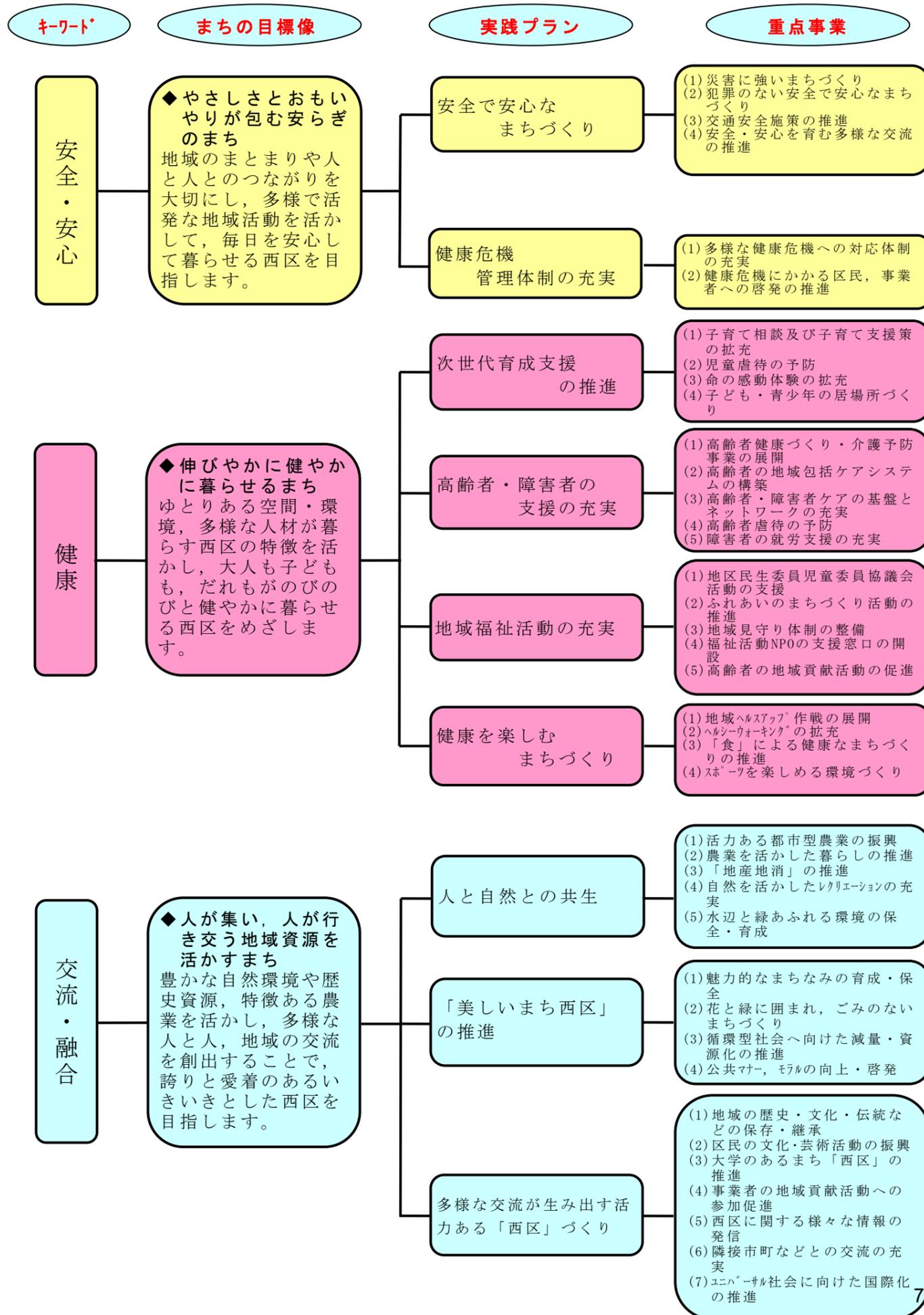
西区計画のフレーム

別紙をご覧ください。

今後のスケジュール

平成21年度		平成22年度
10月～12月	1月～3月	4月～
<p>【総論案】 次期計画の幹となる部分（キーワード、まちの目標像、実践プラン）について、検討を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部会（ワークショップ） ・幹事会 ・総会 	<p>【原案】 次期計画の枝葉となる部分（重点行動計画）について総論部分の考え方を踏まえながら検討を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部会（ワークショップ） ・幹事会 ・総会 	<p>【原案の審査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原案の修正作業 ・原案に対する市民意見の募集並びに意見を受けた修正等 ・計画策定&公表（H23.2予定）

中期計画のフレーム図



西区計画のフレーム図

